使い方の手びき

クラフト

ジャノメ・センサークラフトをお買い上げいただきましてありがとうございます。
エレクトロニクス全盛の今、個性豊かな暮らしと、心の充足が求められています。
創業以来60年、ミシン一筋のジャノメが世界に誇る、このコンピュータミシンで、
クラフトの楽しさと暮らしの彩りをあなたに贈ります。

"センサークラフトであなただけの
クラフト作品・ファッションを楽しみましょう"

- ひらがな・数字・アルファベットからペンギン・チューリップにいたるまで186種類もの縫い方がパネルの模様キーに触れるだけで選べます。しかも選んだ模様は大きく見やすい液晶パネルにそのまま表示、これは世界で初めて、ジャノメの技術が生んだ新しい世界です。

- 一度に31種類もの模様を連続して記憶させたり、反転させたり、そのうえ模様の拡大・縮小も思いのまま。
Yシャツやハンカチに名前やイニシャルを入れたり、文章をつづったり、ワンポイント模様を楽しむのも素敵ですね。

- もちろん実用縫いも万全です。直線縫い・かがり縫いからボタンホールまで、ソーイングに必要な縫いはすべてコンピュータが記憶しています。洋裁が苦手な人もこの一台で大丈夫。

- 面倒な糸調子調整はコンピュータにまかせましょう。
コンピュータが一針毎に制御して、最適で美しい縫い目を縫いあげます。
極薄物縫い、太糸での縫いもマニュアルセットでOKです。

- ボタンホールは使用するボタンを押えのボタン受け台にはさみこむだけ。あとはセンサーがボタンホールの長さを計算しながら、自動的に縫いあげて行きます。
厚物の重ね縫いから薄物まで、コンピュータ制御でらくらくソーイング。

- 操作は簡単、電源を入れると直線縫いに自動セットされます。
組み合わせ模様の確認や取り消しが容易にでき、針の上下停針機能も選択できるなど、使いやすさはバツグンです。

- 水平全回転釜を使用しており、ボビンケースは不要です。
ボビンの出し入れが簡単で、しかも下糸の残量を見ながら縫えます。

- 広い作業面はワンタッチでそでつけ、ズボンのすその始末などに便利なフリーアームに早変り。音もとても静かで、給油も不要です。
電源コード、コントローラーコードは便利なコードリール式、付属品は全てミシン本体に収納、気軽にいつでも即ソーイング。

- 全国の支店ではソーイングクラフト教室を開講しております。
このミシンで素敵な作品に挑戦してください。

目次

ミシンの手入れと調整

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために………

①ミシンを動かしているとき、**針から目をはなさないように**注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

②つぎのようなときは、**必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。**

■使用後　■ミシンのそばをはなれるとき

■部品をつけたり、はずしたりするとき

■ミシンの手入れをするとき

③コントローラーの上には、物をのせないでください。

④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

★ご使用の前に………

①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために………

①このミシンは、注油の必要がありません。

②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。

③湿気の多いところはさけてください。

④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(89~91ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。
(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

各部の名まえ

糸調子ダイヤル
(17ページ参照)
糸立て棒
糸こま押え
早見板
天板
押えポケット
液晶表示板調整つまみ
糸巻き軸
ボビン押え
天びん
押え圧ダイヤル
(22ページ参照)
照明ランプスイッチ
面板
糸道案内図
糸切り
照明ランプ
糸通し
(14ページ参照)
押えと押えホルダー
(22ページ参照)
針板
角板
返し縫いキー
角板開放ボタン
補助テーブル
(小物入れ)
手さげハンドル
押え上げ
はずみ車
送り調節ねじ
フリーアーム
ドロップつまみ
(58ページ参照)
プラグ受け
電源プラグ
針止めねじ
電源スイッチ

キーボード

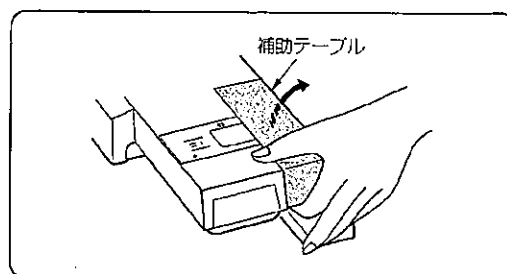
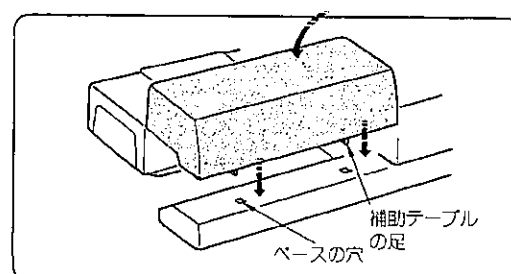
デジタルスクリーン（液晶表示板）
反転記憶キー（28ページ参照）
よみだしキー（21および81ページ参照）
とりけしキー（33ページ参照）
記憶キー（27ページ参照）
模様選択キー（25ページ参照）
コンピュータ糸調子パネル（7ページ参照）
下停針キー（4ページ参照）
止め縫いキー（24ページ参照）
低速キー（7ページ参照）
模様長さキー（62ページ参照）
字体きりかえキー（32ページ参照）

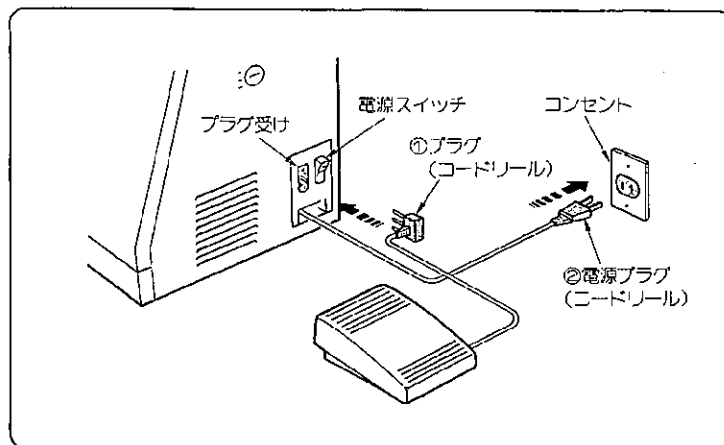
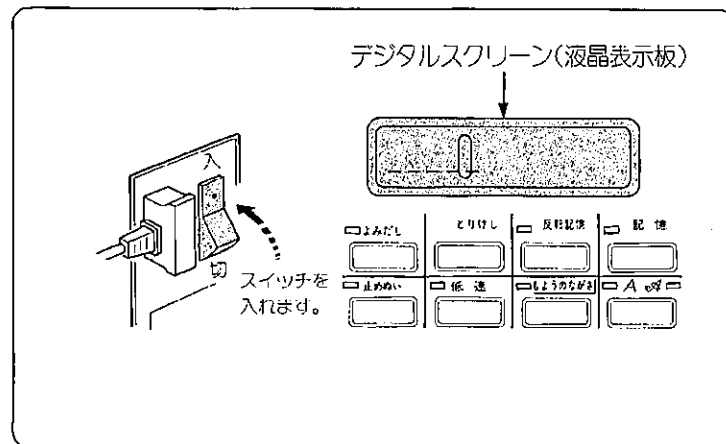
コンピュータ糸調子
マニュアル　ボード
よみだし　とりけし　反転記憶　記憶
止めぬい　低速　もようのながさ　A

あ いうえお　か きくけこ　さ しすせそ　た ちつてと
な にぬねの　は ひふへほ　ま みむめも　や ゆ よ
ら りるれろ　わ を ん　゛ ゜　ー
A BCDE　F GHIJ　K LMNO　P QRST
U VWXY　Z &?!.　0 1234　5 6789

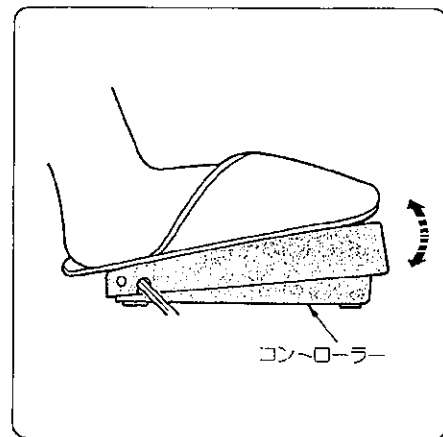
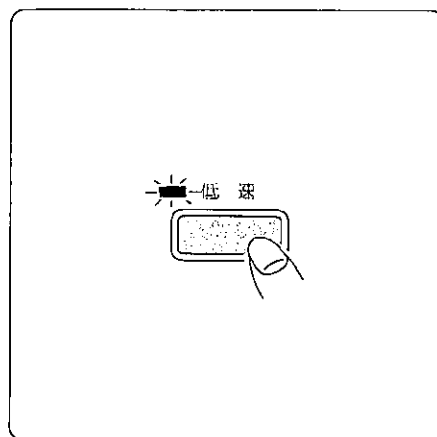
マニュアル表示板（46ページ参照）
ぬい目の巾　ぬい目のあらさ
マニュアル表示板（46ページ参照）
縫い目の巾調節キー（46ページ参照）
縫い目のあらさ調節キー（46ページ参照）

《補助テーブルのはずし方、つけ方》

○補助テーブルをひらくと、小物入れに標準付属品が収納されています。

○はずすときは、補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。

○つけるときは、ベースの穴に補助テーブルの足をのせて上から軽く押しつけます。

電源をつなぎましょう

電源スイッチを「切」にして、①、②の順に、プラグをさしこみます。

スイッチを「入」にすると直線縫いに自動セットされます。

＊電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)です。
＊ミシンを使わないときは、電源プラグやコントローラーのプラグを抜いてください。

速度の調節になれましょう

コントローラーは、深く踏みこむほど、速くなります。

低速キーを押すとシグナルがついて、コントローラーの踏みこみが同じでも、ゆっくりになります。

もう１度キーを押すと、シグナルが消えて、自動セットの速さに戻ります。

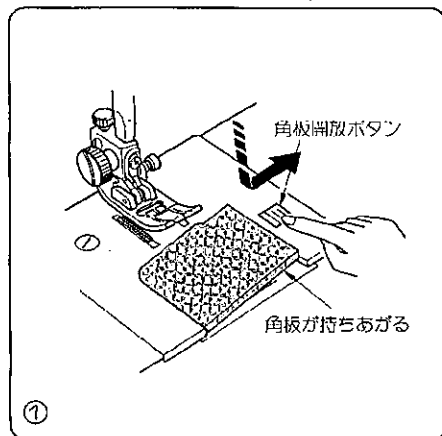
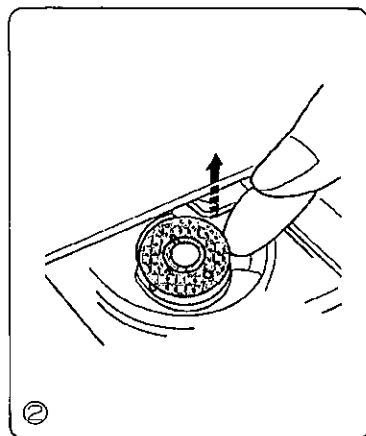
＊押え上げをあげ、コントローラーを踏んで、踏みこみと速さの関係になれてください。

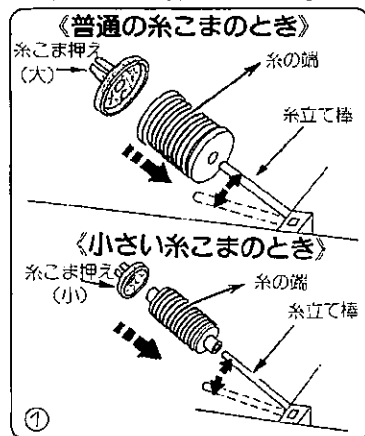
照明ランプ

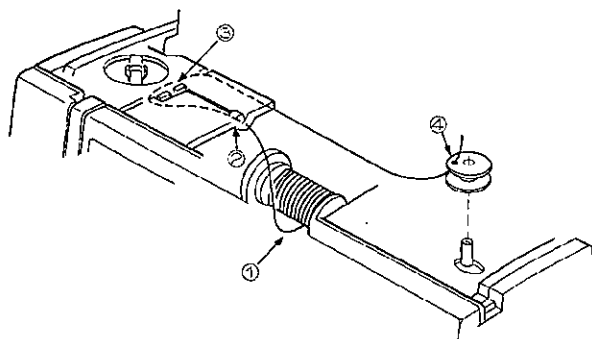
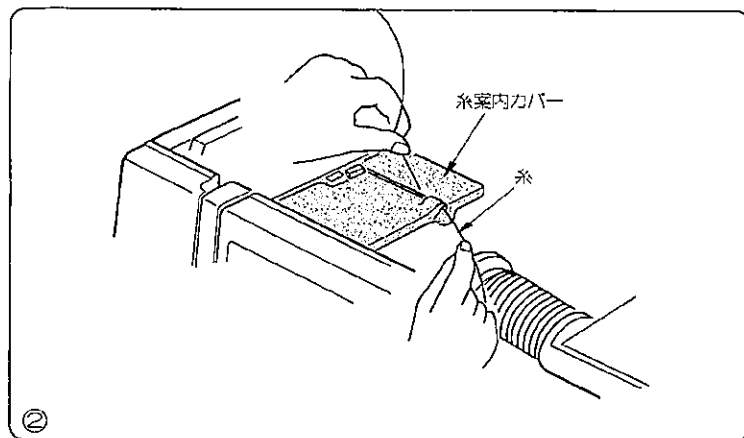
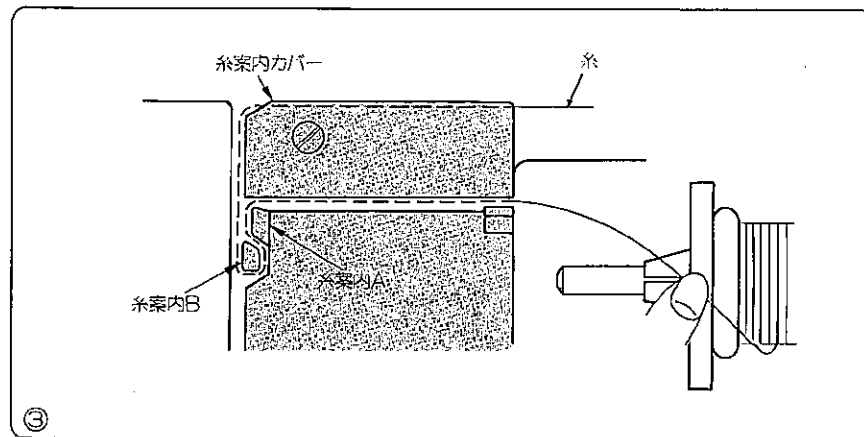
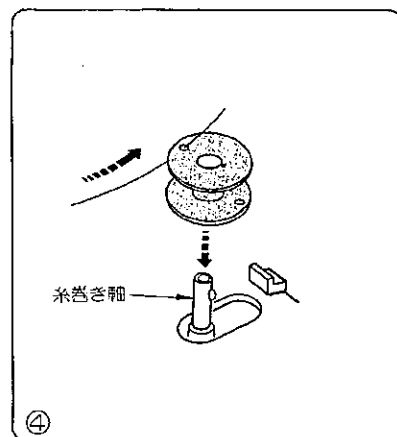
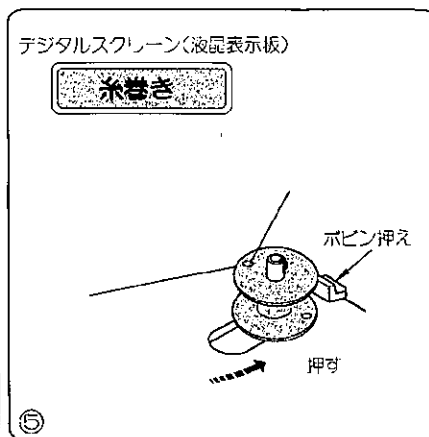
照明ランプの点滅は、スイッチをまわします。

＊安全のためにランプはとりつけたままにしてください。

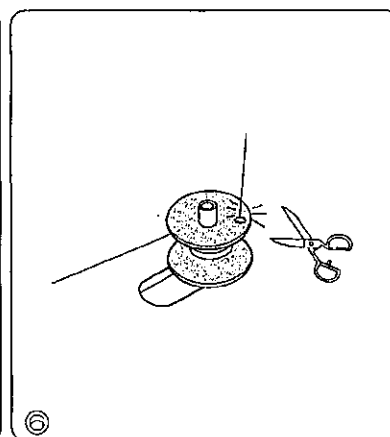
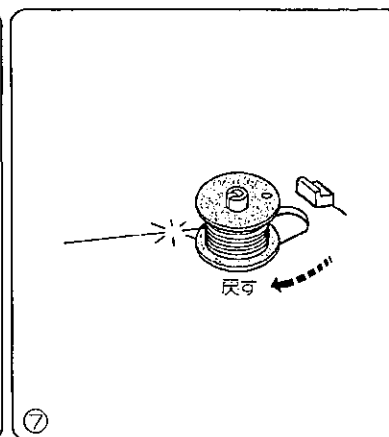
下糸の準備をしましょう

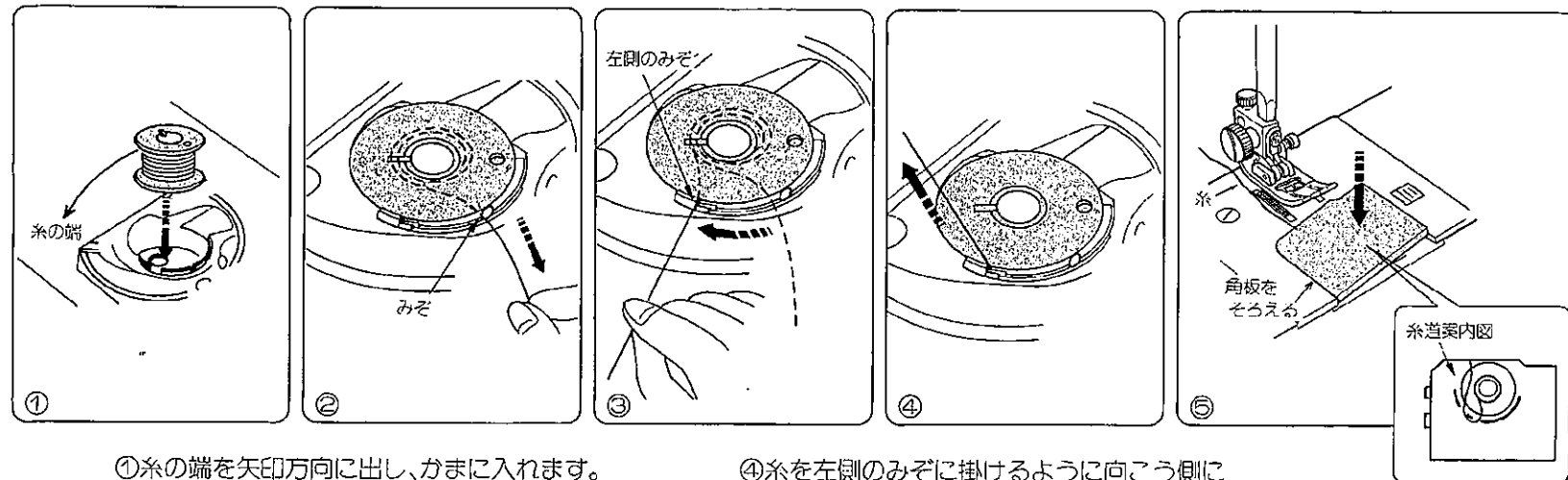
★ボビンをとり出します

①角板開放ボタンを右へずらして角板をはずします。

②ボビンをとり出します

★ボビンに糸を巻きます

①糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして糸こまを入れます。
糸こま押えで糸こまをおさえたら、糸立て棒をもとに戻します。

＊補助糸立て棒を使うときは、糸こまから引き出した糸を②、③、④の順に掛けます。
（補助糸立て棒のとりつけ方は、66ページをごらんください。）

②糸案内カバーのすきまに糸を通します

③糸案内Aと糸案内Bに糸をまわし、糸案内カバーに掛けて右に糸を引き出します。

④ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。

＊液晶表示板に［糸巻き］と表示されます。

＊糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

⑥糸の端をつまんだまま、コントローラーを軽く踏みはじめます。ボビンに糸が三重くらい巻きついたら、いったん踏みこみを止めて糸を切ります。

⑦コントローラーをふたたび踏みます。巻きおわるとボビンの回転が止まります。コントローラーの踏みこみを止めてボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして、糸を切ります。

★ボビンをかまにセットします

①糸の端を矢印方向に出し､かまに入れます。

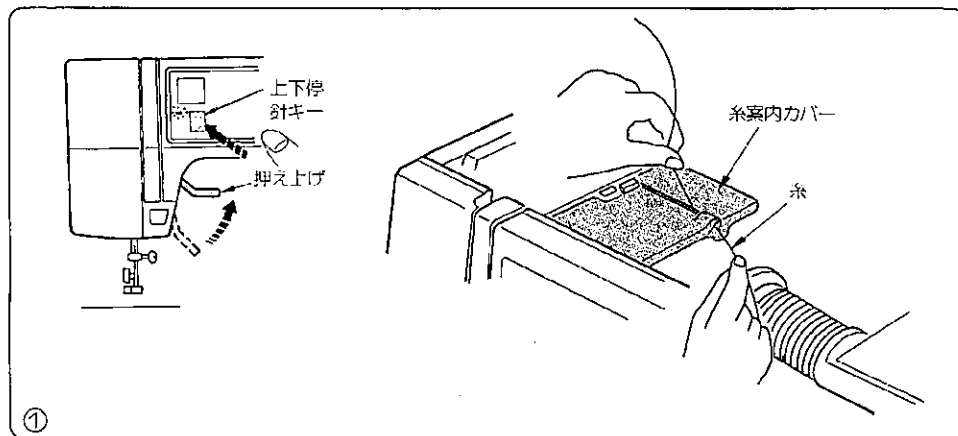
②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。

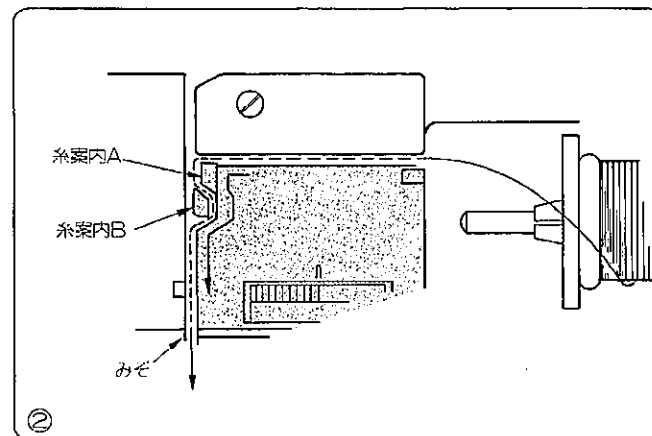
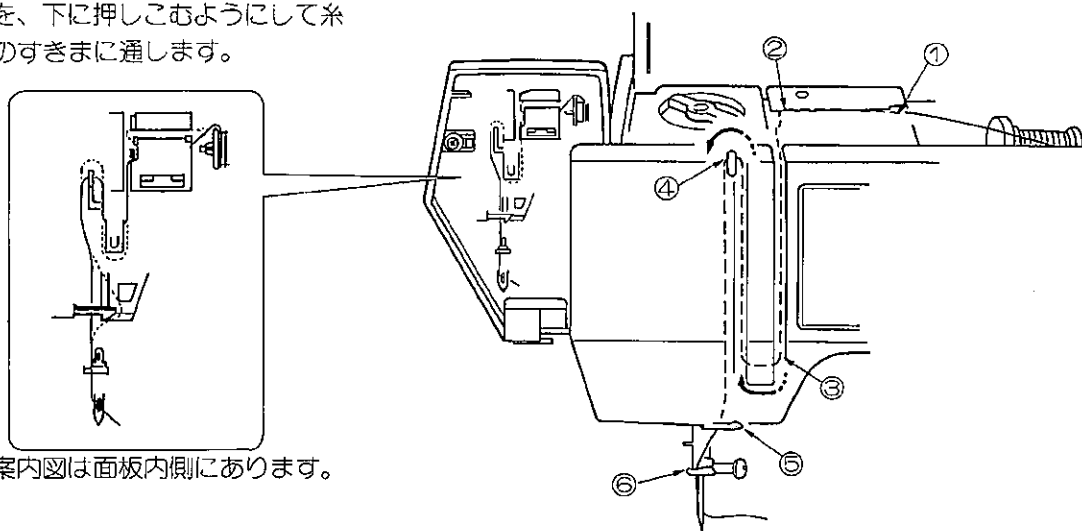
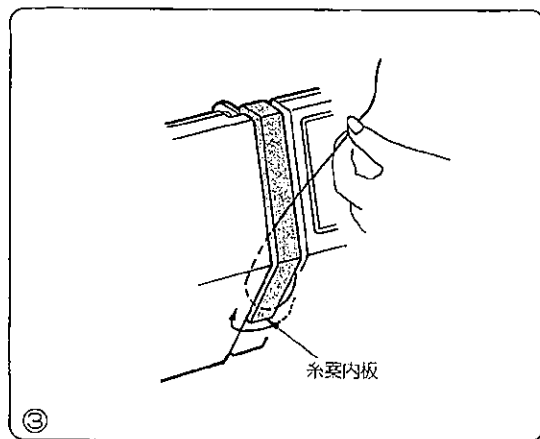
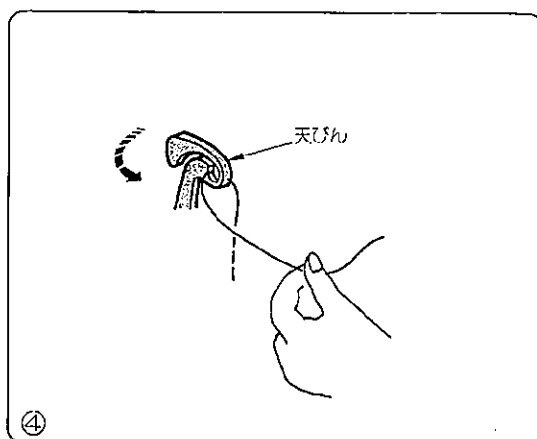
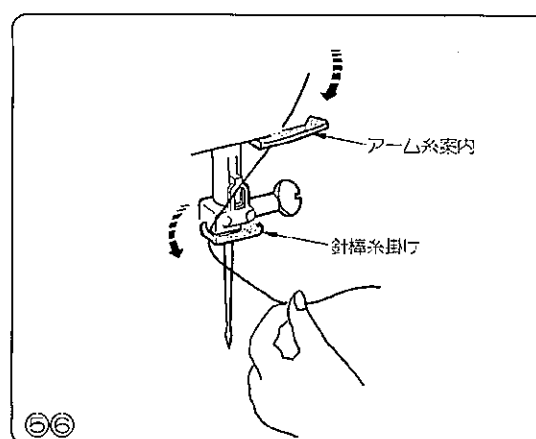
③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞのところに出します。

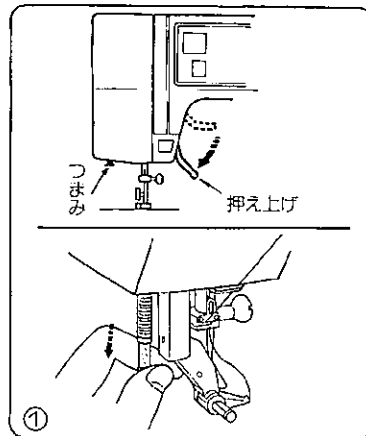
④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

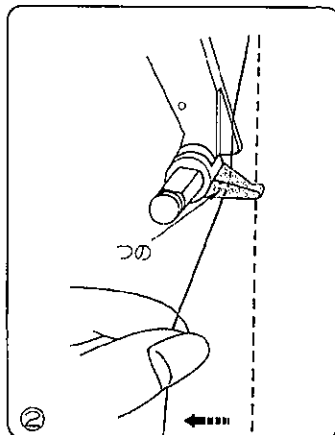
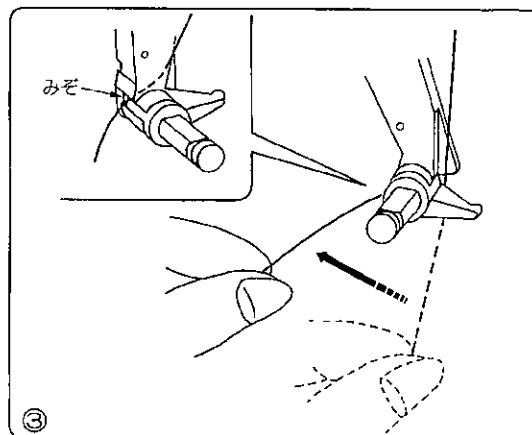
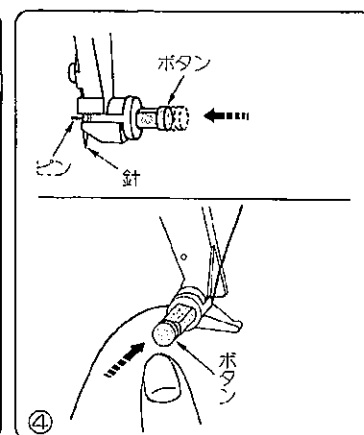
⑤下糸は10㎝くらい引き出して、角板をつけます。

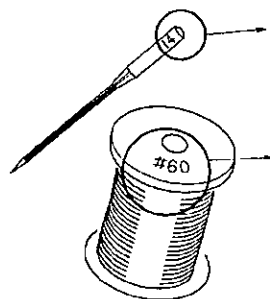
上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

押え上げをあげ、上下停針キーを２度押して針をあげます。

①つまんだ糸を、下に押しこむようにして糸案内カバーのすきまに通します。

②糸案内Aと糸案内Bに糸をまわし、みぞにそって手前に糸を引き出します。

＊糸道案内図は面板内側にあります。

③糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。

④天びんに、右からうしろへまわして左手前に出し、まっすぐにおろします。

⑤アーム糸案内に右から掛けます。
⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

★糸通しを使って針に糸を通します

①押え上げをさげます。糸通しのつまみを、止まるまでいっぱいに、引きさげます。

＊針があがっていることを確かめましょう。

②糸を、つのの向こう側に掛けて、左にすべらせます。

③左手前に引きながら、裏側のみぞに入れ、糸の端を手前にたらします。

④ボタンを静かに、いっぱいまで押して指をはなします。

＊ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていかないときは、無理にボタンを押さないで①からやり直してください。

針は、11〜16番、およびジャノメブルー針が使えます。

糸は50〜100番が使えます。

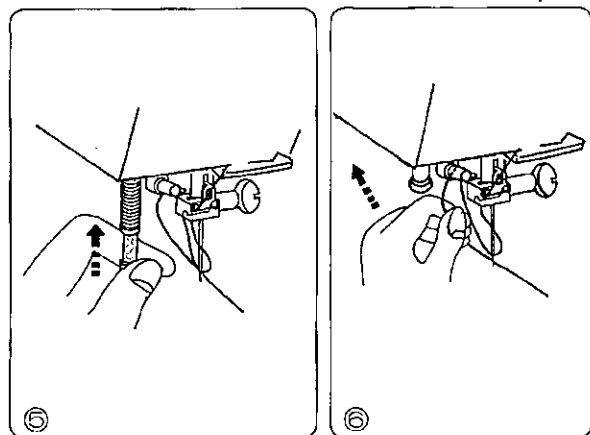
⑤

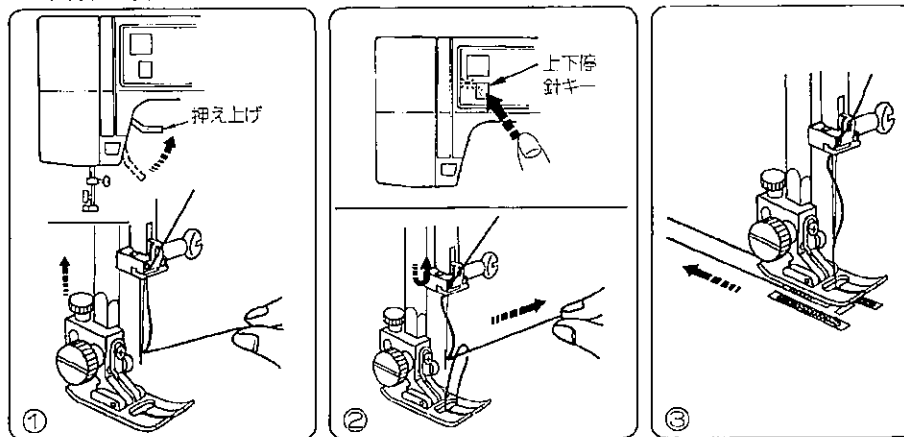
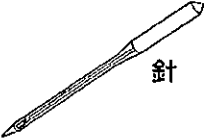
⑥

★下糸を引きあげます

①

②

③

⑤つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

⑥糸の輪を上方に引きあげるようにして、糸通してからはずし、針穴から糸の端を引き出します。

①押え上げをあげます。上糸の端を、ややゆるめて持ちます。

②上下停針キーを2度押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③上糸と下糸を、押えの下から向こう側に、10cmほど引き出して、そろえておきます。

布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン ボイル	シフォン ジョーゼット オーガンジー	デシン クレープ モスリン	シングルニット地 トリコット地	絹糸 80番～100番 綿糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布	ブロード サッカー ピケ	タフタ ファイユ サテン	ジョーゼット フラノ サキソニー	ジャガードニット	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
					綿糸 50番	14番
厚い布	デニム キルティング地 ギャバジン		ツィード ギャバジン コート地	ダブルニット	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
					絹糸 30番 綿糸 30番	16番

＊ふつう上糸と下糸は同じ糸を使います。

＊うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。

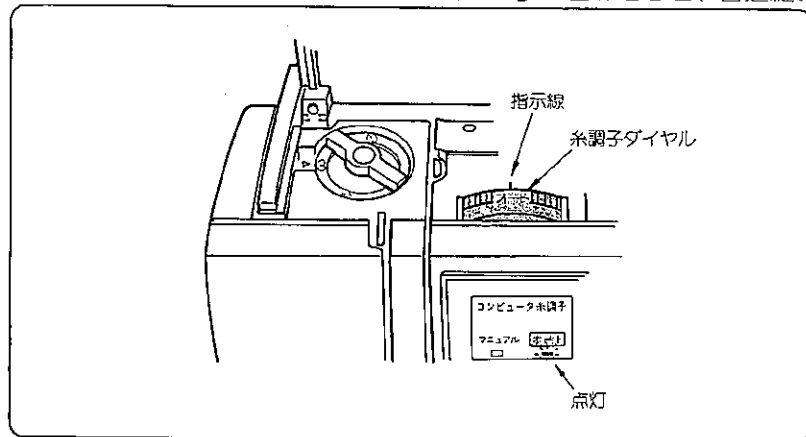
＊糸調子は オート にセットされています。ごくうすい布を縫うときには「うすもの」に合わせてください。（18ページ参照）。

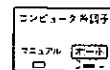
＊針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、必ず試し縫いをして確かめてみましょう。

＊ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

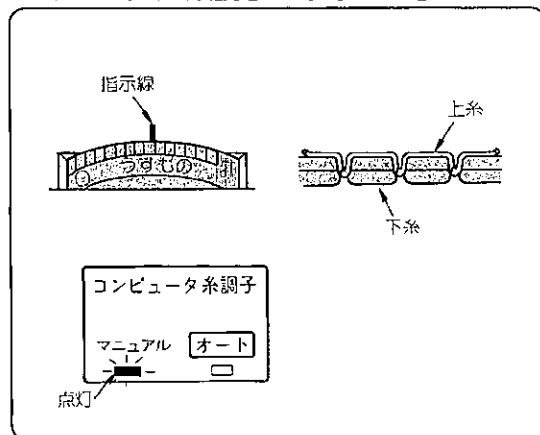
縫い目の美しいコンピュータ糸調子

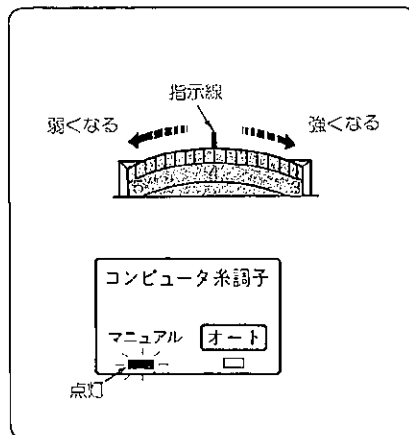
★コンピュータ糸調子

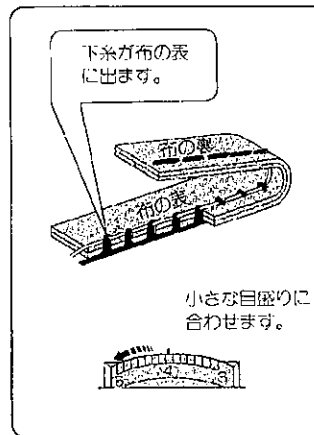
このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。

《バランスのとれた糸調子》

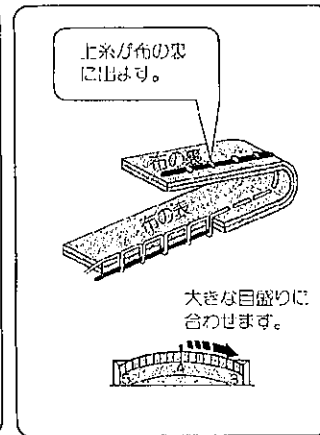
○直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。
○ジグザグ縫いのときには、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸は50番〜100番を使います。

○糸調子ダイヤルを「オート」に合わせるとコンピュータ糸調子の オート に緑色のシグナルがつき、コンピュータが自動的に糸調子を合わせます。
○普通縫いのときは「オート」に合わせます。
○それぞれの《ミシンのセット》で糸調子調節の範囲を示してあるときや、素材や縫い方によって糸調子のバランスがくずれたときには、マニュアル糸調子(18ページ)をごらんください。

★マニュアル糸調子「うすもの」

○糸調子ダイヤルを「うすもの」に合わせると自動的にうすい布に適した糸調子になります。

★マニュアル糸調子

○糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせるとマニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

★上糸が強すぎるとき

★上糸が弱すぎるとき

○糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

＊マニュアル糸調子は、それぞれの《ミシンのセット》にその目安を示してあります。

直線縫い

《ミシンのセット》

液晶表示板

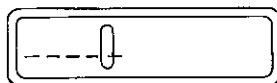
模様

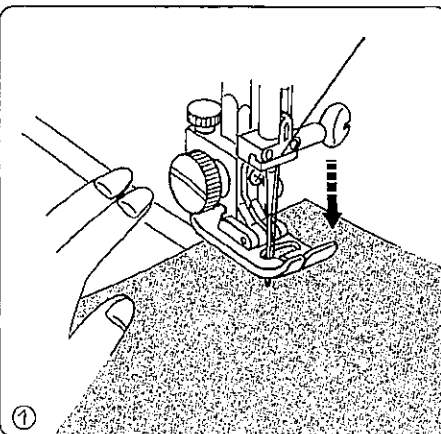
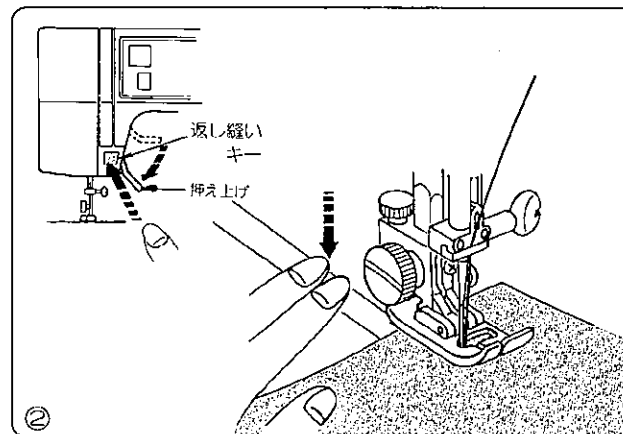
押え

A　基本押え

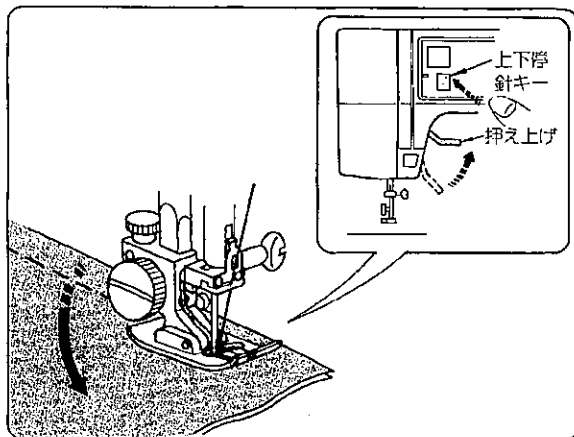
★縫いはじめ

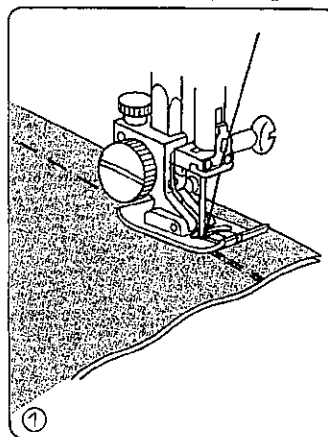
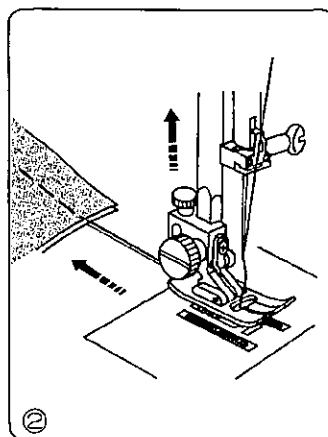
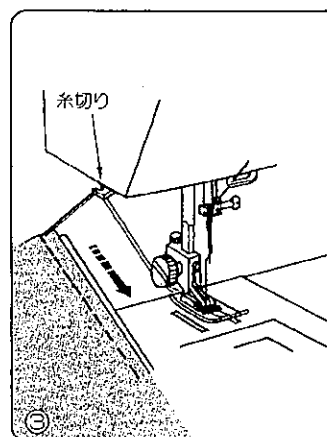
①

②

＊電源スイッチを入れると、自動的に直線縫いにセットされます。

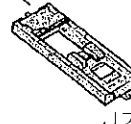
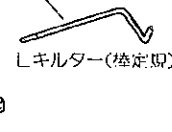
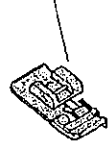
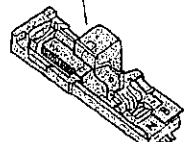
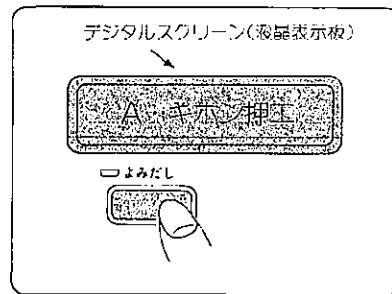
＊直線縫いに自動セットが完了するまで、はずみ車を手でまわさないでください。

①糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。

②押え上げをさげて、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

＊はじめのほつれ止めは、返し縫いキーを押しながら返し縫いをする方法と、自動返し縫いのついた模様 ┃ を使う方法とがあります。（38ページをごらんください。）

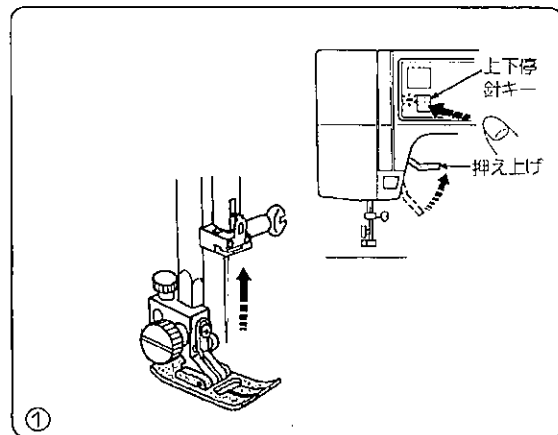
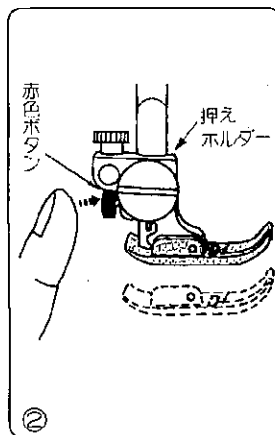
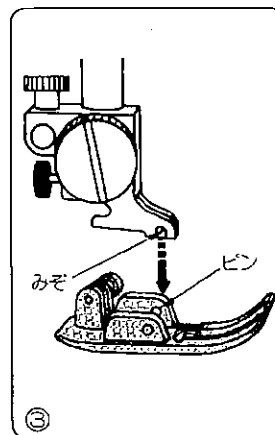
★縫い方向をかえるには

ミシンを止め、上下停針キーを押して針を布にさし、押え上げをあげます。
針を布にさしたまま、縫い方向をかえて押え上げをさげ、上下停針キーを押して針を上位置にしておきます。

★縫いおわりの返し縫い

①返し縫いキーを押しながら数針返し縫いをします。
＊模様 | のときは、返し縫いキーを１度押すだけで、自動的に返し縫いをします。

②押え上げをあげて、布を向こう側に、静かに引き出します。

③糸切りで糸を切ります。

押えのとりかえ

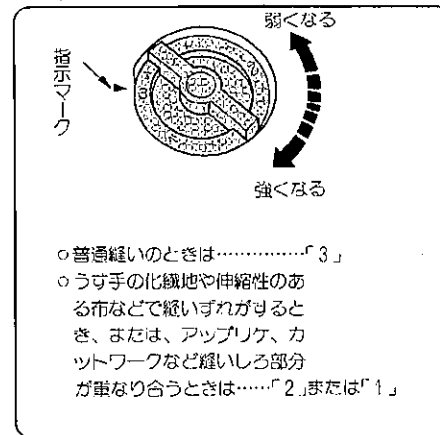
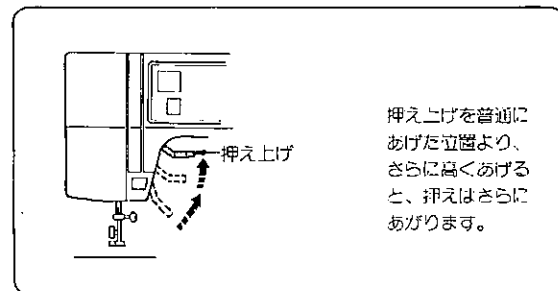
★押えの使いわけ

＊Jスライド押えとNセンサー押えは、小物入れにはいっています。

★よみだしキーによる押え表示

選んだ模様で使用する押えは、よみだしキーを押して確認できます。

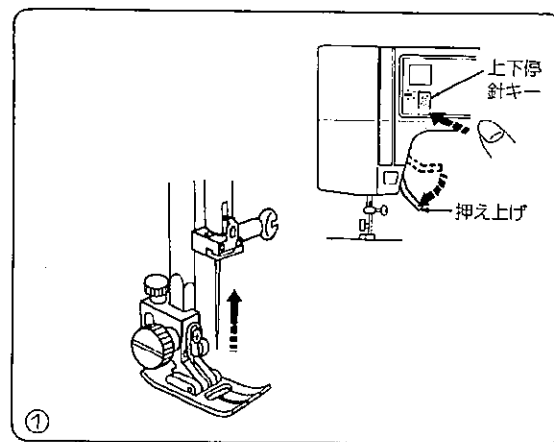
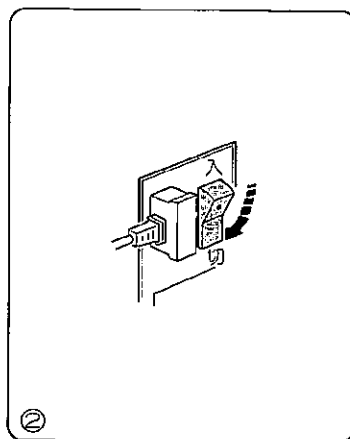
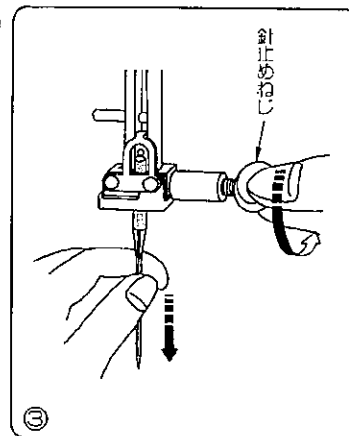
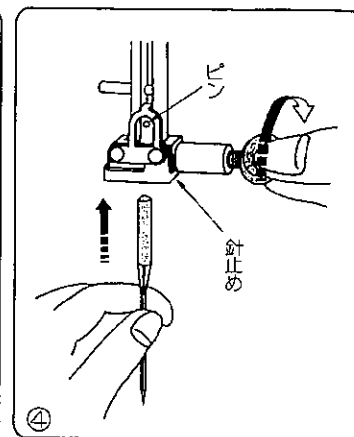
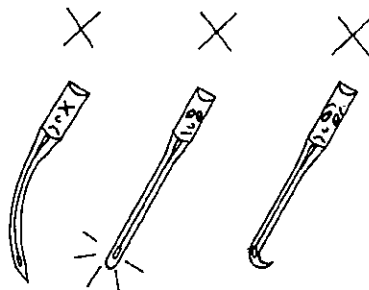
★押えのとりはずし方、つけ方

①上下停針キーを押して針をあげ、押え上げをあげます。

②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

③押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

★押え圧ダイヤルの使い方

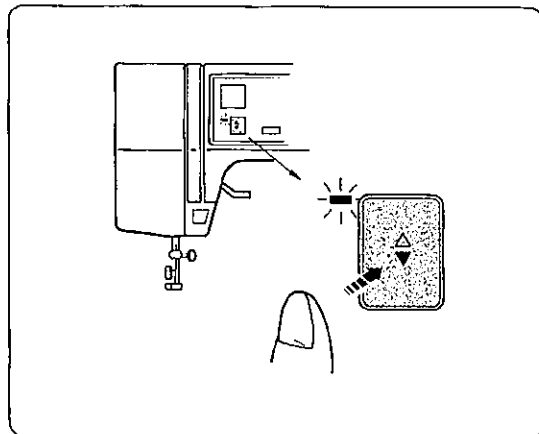
弱くなる
指示マーク
強くなる

- 普通縫いのときは……………「3」
- うす手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれがするとき、または、アップリケ、カットワークなど縫いしろ部分が重なり合うときは……「2」または「1」

《厚い布を入れるとき》

＊Nセンサー押えのつけ方は、オートボタンホール（44ページ）をごらんください。

＊ファスナー押えのつけ方は、ファスナーつけ（54ページ）をごらんください。

針のとりかえ

①上下停針キーを押して針をあげ、押え上げをさげます。

②電源スイッチを切ります。

③針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。

④針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいにピンにあたるまで針止めにさしこみ針止めねじをかたくしめます。

＊全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

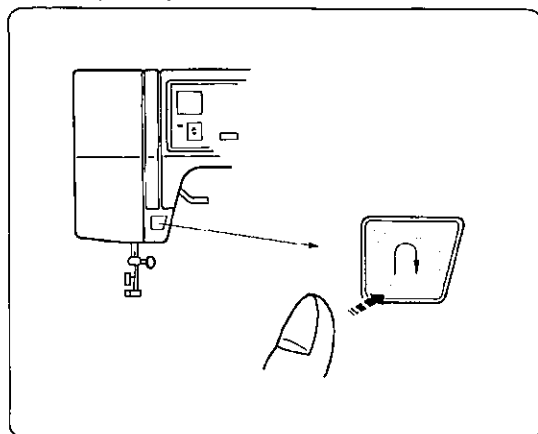
針の上下とほつれ止め

★上下停針キー

○電源を入れると、赤いシグナルがつきます。

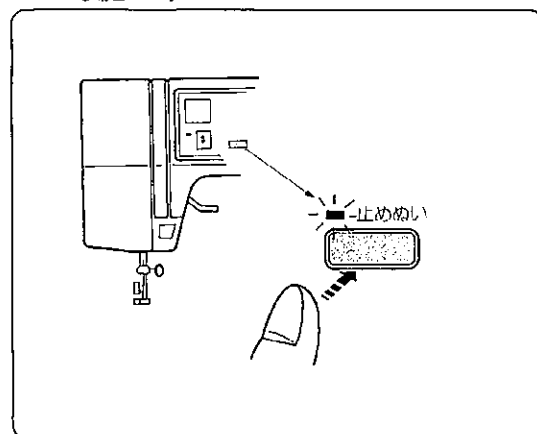
○キーを押すと、針が上位置か下位置で止まります。もう１度押すと、上下位置が切りかわります。

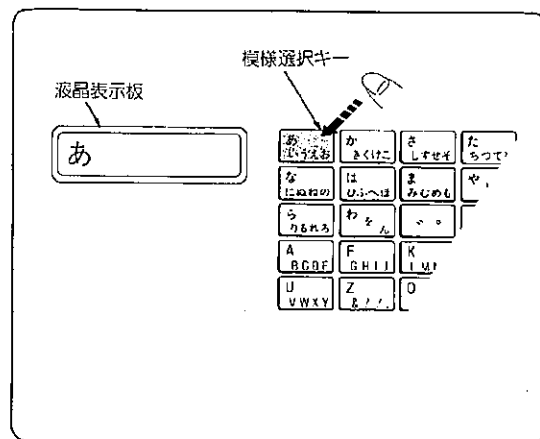
○ 点灯している状態のときは、コントローラを踏んで縫いおわると、針は上位置で止まります。

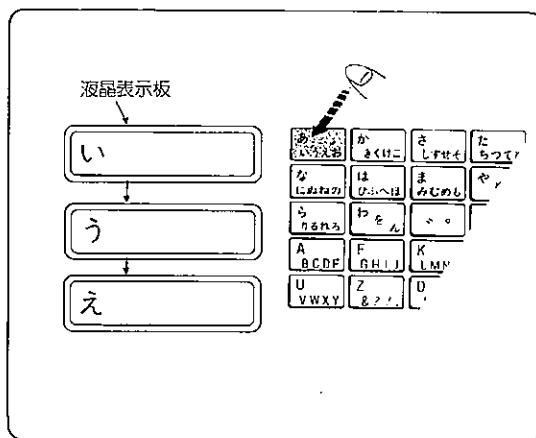
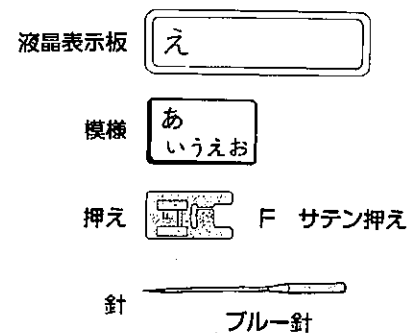
○ 点灯していない状態のときは、コントローラを踏んで縫いおわると、針は下位置で止まります。

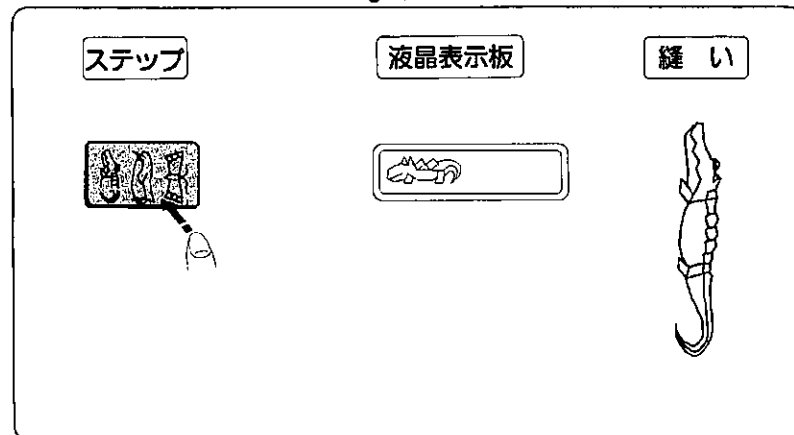
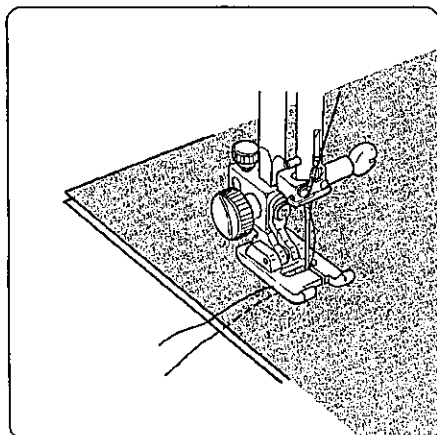
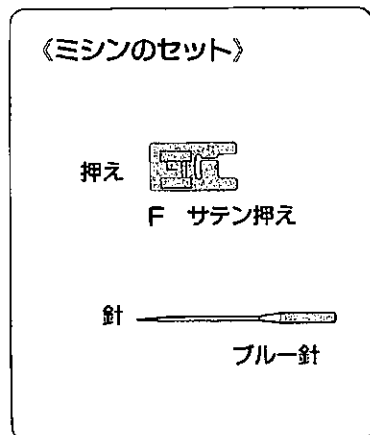
★返し縫いキー

○直線縫いのときキーを押している間は、返し縫いをします。

○模様縫いのとき運転中に返し縫いキーを押すと、その場で止め縫いをして自動的に止まります。

★止め縫いキー

○止め縫いキーを押すと、数針止め縫いをして、自動的に止まります。

○模様縫いのとき運転中に止め縫いキーを押すと、模様縫いの完了するところで止め縫いをして、自動的に止まります。

★試し縫いしましょう

○模様選択キーを押すと、はじめの模様が選べます。
○選ばれた模様は、液晶表示板に示されます。

○もう１度キーを押すと、次の模様が選べます。押しつづけると、模様が連続してかわります。

○キーを４回押すと「え」が選べます。

○糸を正しく掛けて、実際に試し縫いをしてください。

模様を１つだけ、または、組み合わせて縫います。

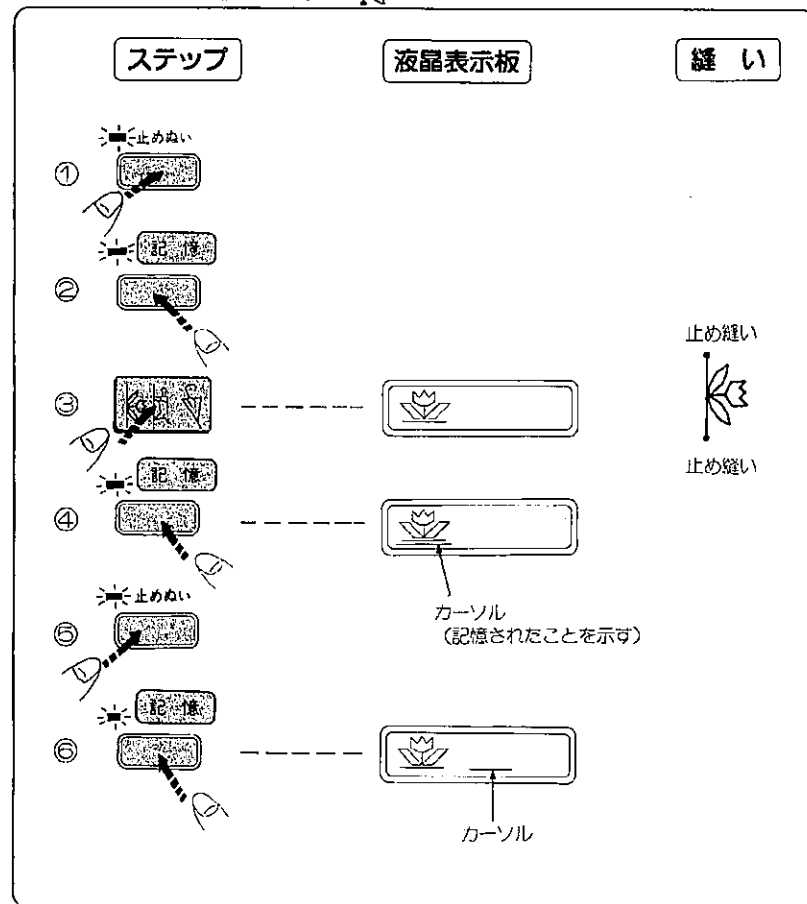
＊キーの使い方は、それぞれの例をごらんください。
＊プログラムの確認と訂正は、81ページをごらんください。

上糸と下糸を横に引き出します。

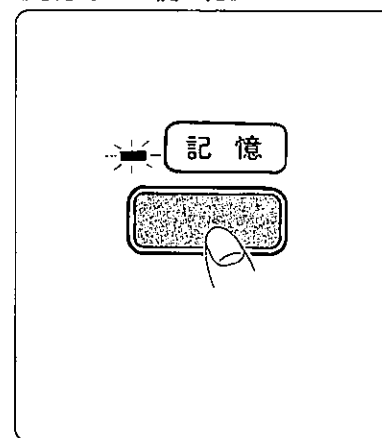
＊模様のはじめとおわりに、止め縫いが自動セットされています。

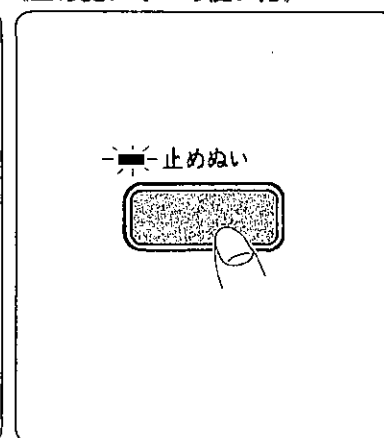
＊模様の種類は、35ページをごらんください。

＊ししゅう枠を使えばよりきれいに仕上ります。使い方は、83ページをごらんください。

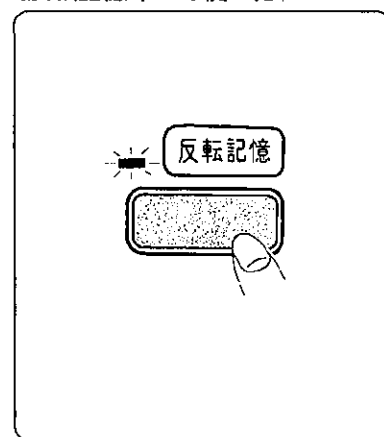
★ワンサイクル縫いの例( )

模様のはじめとおわりに、止め縫いを記憶させて縫います。

＊模様の種類は、36ページをごらんください。

《記憶キーの使い方》

模様を選んでから記憶キーを押すと、キーを押した数だけその模様を記憶します。さらに、他の模様を選んでから記憶キーを押すと、前の模様に続けて、次に選んだ模様を記憶します。

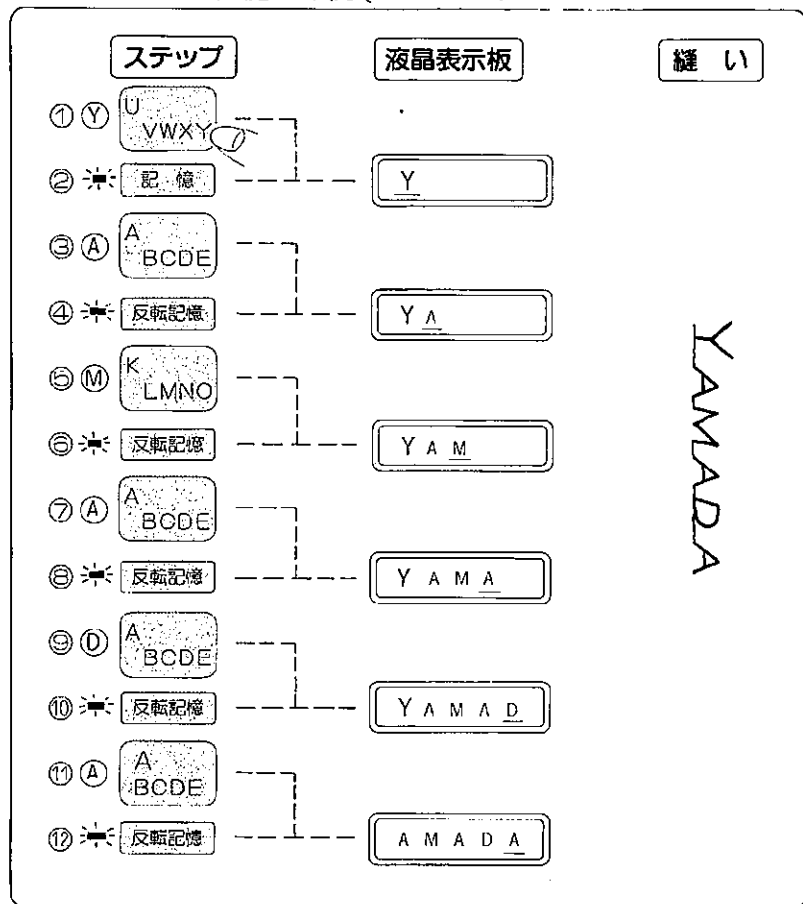
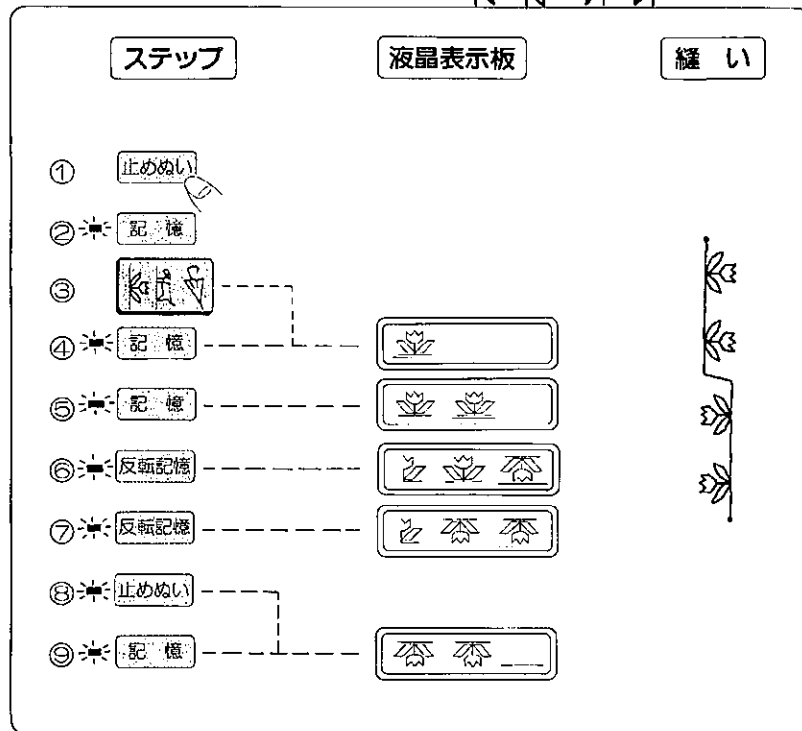
《止め縫いキーの使い方》

プログラム縫いなどのはじめやおわりに記憶させて止め縫いをします。

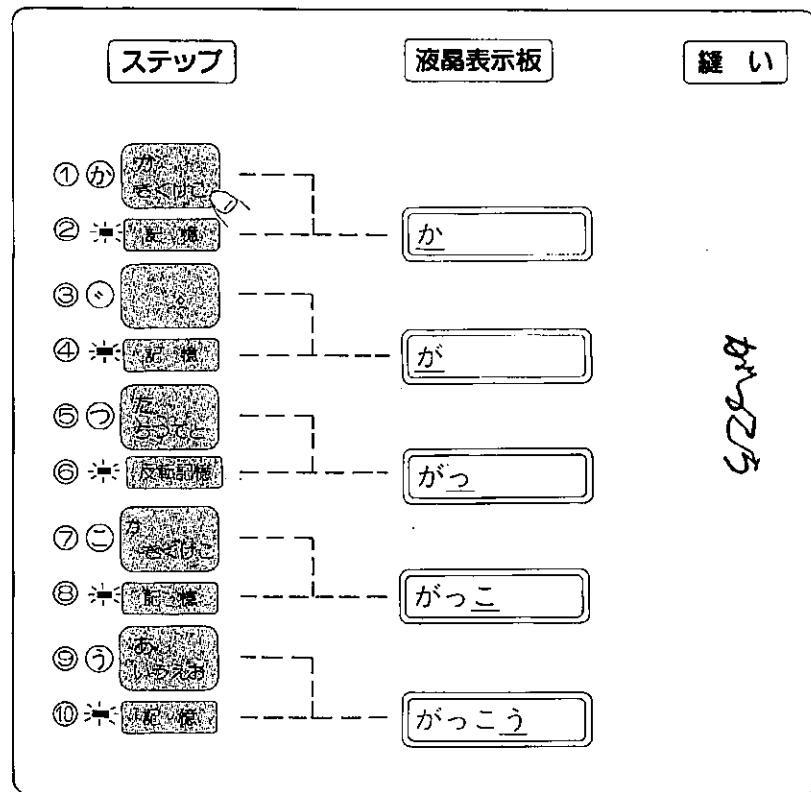
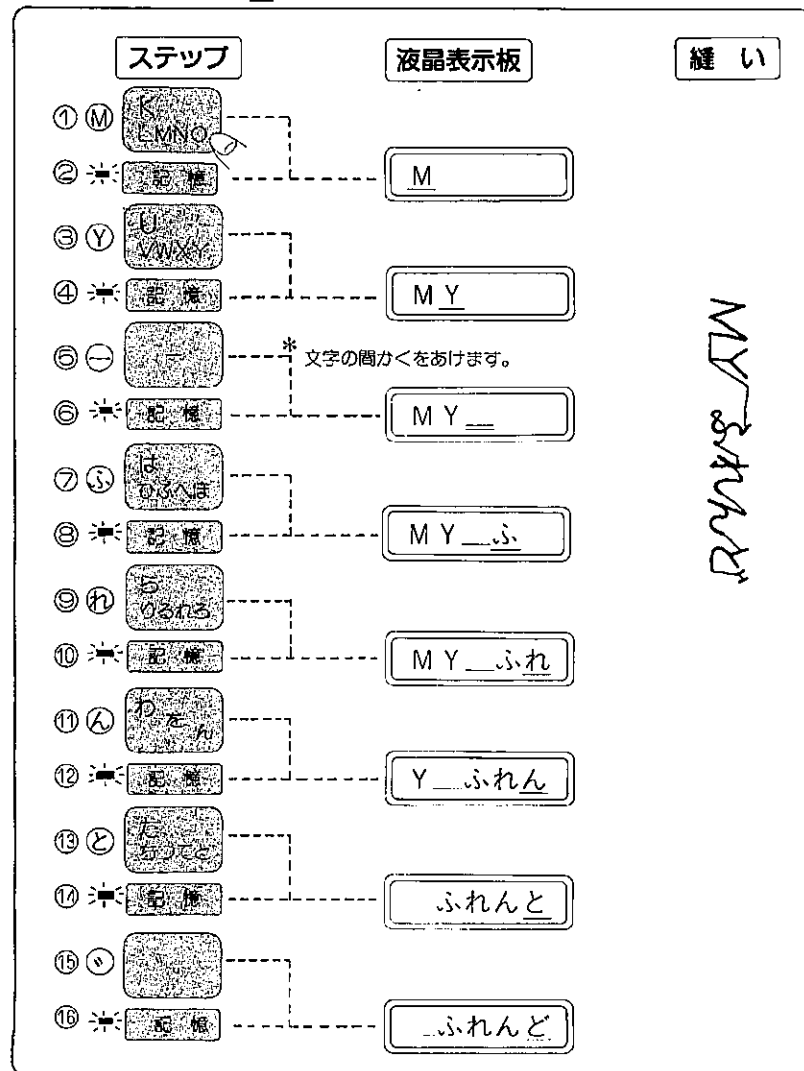
★数字と文字の組み合わせ縫いの例（1ねん＿2くみ）

《反転記憶キーの使い方》

模様を選んでから反転記憶キーを押すと、選んだ模様を左右反対に記憶します。

文字や数字を選んで反転記憶キーを押すと、左右反対ではなく、そのままの向きで大きさを約⅔に縮少して記憶します。ひらがな縫いなどのときに小さい文字として使用します。

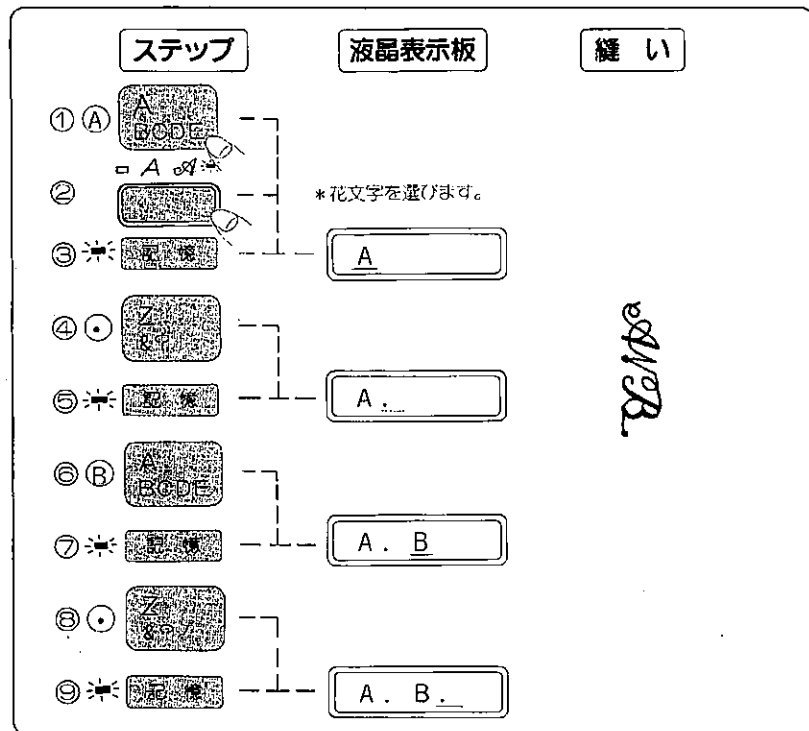
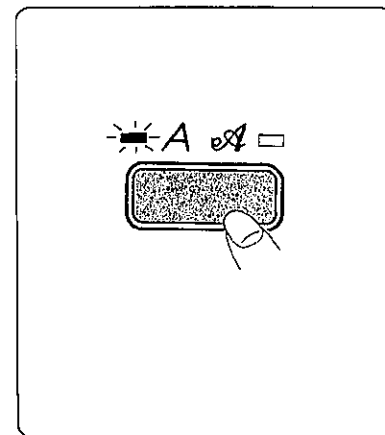
＊記憶キーと反転記憶キーを操作したとき電子音が鳴ります。電子音は、音色をかえて区別できるようにしています。

★アルファベット縫いの例（YAMADA）

★止め縫いを使った模様縫いの例（　）

模様を選んでから反転記憶キーを押すと、キーを押した数だけその模様を左右反対に記憶します。

★ひらがな縫いの例(がっこう)

★アルファベットとひらがなの組み合わせ縫いの例(MY_ふれんど)

★スペースを使った縫いの例（1＿ねん）

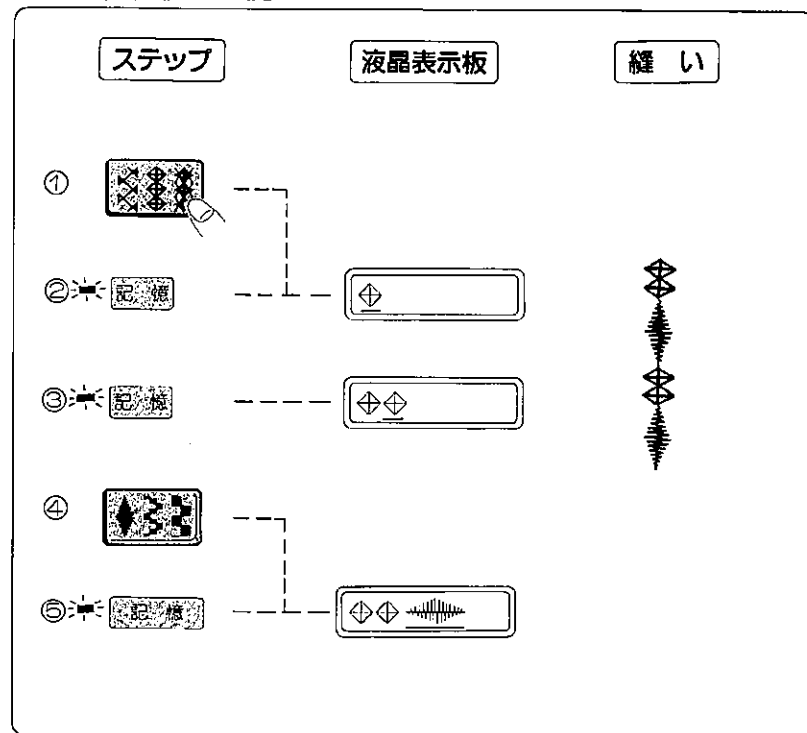
文字の間かくをあけるには、模様[－]を使います。

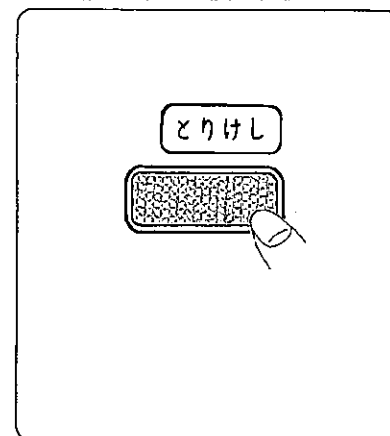
文字の間かくを模様[－]であけたとき、間かくを小さくするには、縫い目のあらさ調節キーを使います。

★イニシアル縫いの例(𝒜.ℬ.)

《字体きりかえキーの使い方》

アルファベットや数字を選ぶと、字体きりかえキーの左側
A 𝒜 □にシグナルがつき、ブロック体の文字が選べます。

字体きりかえキーを押すと、右側□ A 𝒜にシグナルがつき、花文字が選べます。
もう1度キーを押すと、またブロック体が選べます。

★ 連続模様縫いの例

記憶させた模様を、連続してくり返し縫います。

《取り消しキーの使い方》

縫いはじめる前に、取り消しキーを押すと、プログラムのうしろから順に記憶を取り消します。押してすぐにはなすと1つ、ずっと押し続けていると続けて順番に、取り消します。縫いはじめてから取り消しキーを押すと、プログラムがすべて取り消されます。

＊プログラムがすべて取り消されると、
液晶表示板に ---0 が表示されます。

★プログラムするときに知っておきたいこと

1．模様は、おわりの止め縫いを含めて31個までの模様を記憶します。
ただし、模様 はプログラム記憶できません。

2．模様の長さキーを使った場合おわりの止め縫いを含まないで7個まで記憶します。

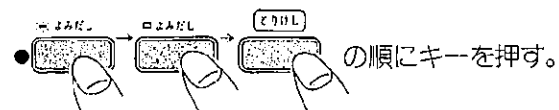
3．プログラムをはじめるときは、取り消しキーを押して、前に入っている記憶をあらかじめ消してください。
長いプログラムは、手順をメモしておくと誤りがふせげます。

4．プログラムの途中で、模様をまちがえて選んで記憶させたことに気づいたら、取り消しキーを押すと、その模様だけが取り消されます。

5．プログラムのおわりに、止め縫い記憶させると、そのあとには模様の追加はできません。

6．組み合わせた模様のおわりに、止め縫いを記憶するか、ワンポイント縫いを記憶すれば、組み合わせた模様を縫って自動的に止めることができます。コントローラーを踏みなおすと、ふたたび同じ模様が縫えます。

8．つぎの場合には、プログラム全部が、取り消されます。
- 電源を切る。
- プログラムした模様を縫いはじめてから、途中でミシンを止めて模様選択キーを押す。
-

の順にキーを押す。

9．プログラムするとき正しくない操作をすると警告電子音が鳴って誤りを知らせてくれます。

＊プログラムの確認と訂正は、81～82ページをごらんください。

★数字と文字の糸を切る位置（ワンポイント縫い）

はじめとおわりの止め縫いを含んでいる模様を示し、それぞれの模様がプログラムするときの１記憶単位となります。

あ いうえお	か きくけこ	さ しすせそ	た ちつてと
な にぬねの	は ひふへほ	ま みむめも	や ゆ よ
ら りるれろ	わ を ん	゛ ゜	— 文字の間かくをあけるときに使います。
A BCDE	F GHIJ	K LMNO	P QRST
A BCDE	F GHIJ	K LMNO	P QRST
U VWXY	Z &?!.	0 1234	5 6789
U VWXY	Z &?!v	0 1234	5 6789

★ワンポイントの模様

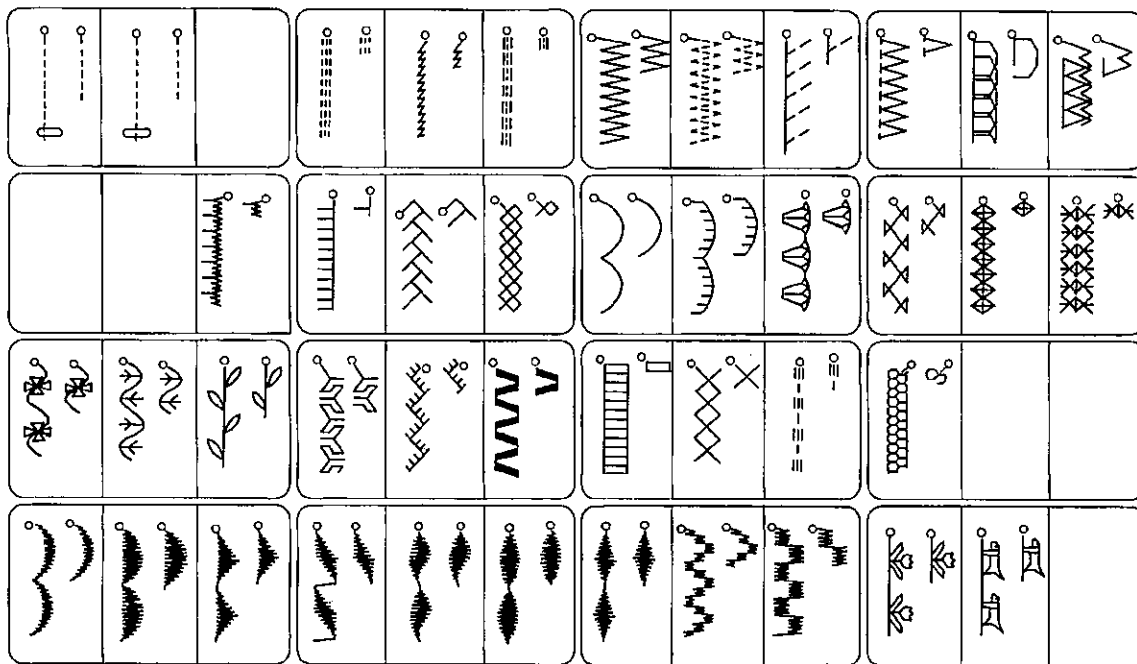
＊○印をつけたところが、模様を縫いはじめる位置です。
＊文字と数字の不要な縫い目を切るときは、図の赤い線のところを切ってください。
＊文字、数字を縫うときの上糸は50〜100番、下糸は同色の細い糸（80〜100番）を使用してください。
＊伸縮性の布には、下に紙をしいて縫ってください。

★プログラムするときの模様の単位

○右側の赤い模様が、それぞれの模様をプログラムするときの１記憶単位となります。

＊液晶表示板には模様の形状を示し、１記憶単位で示していませんのでご注意ください。

（例） 液晶表示板　　縫い

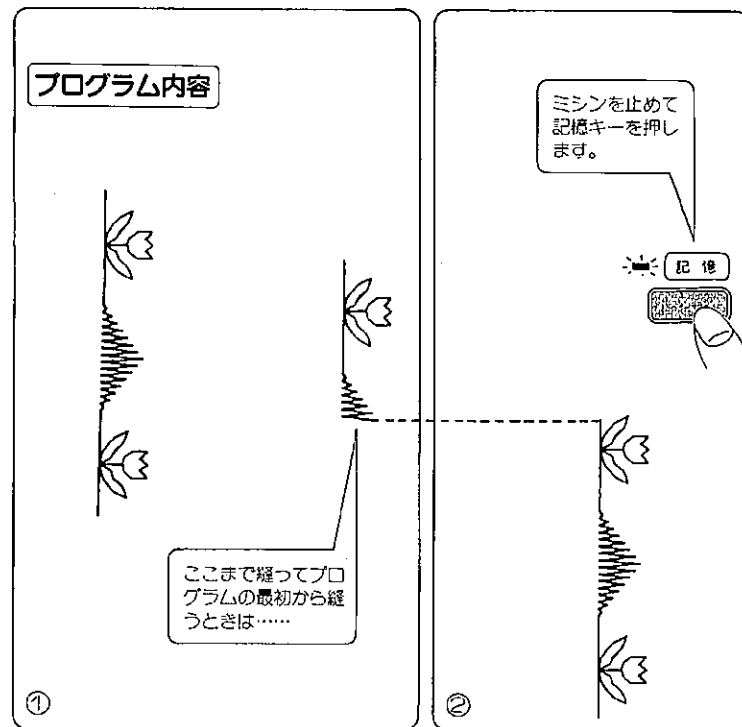
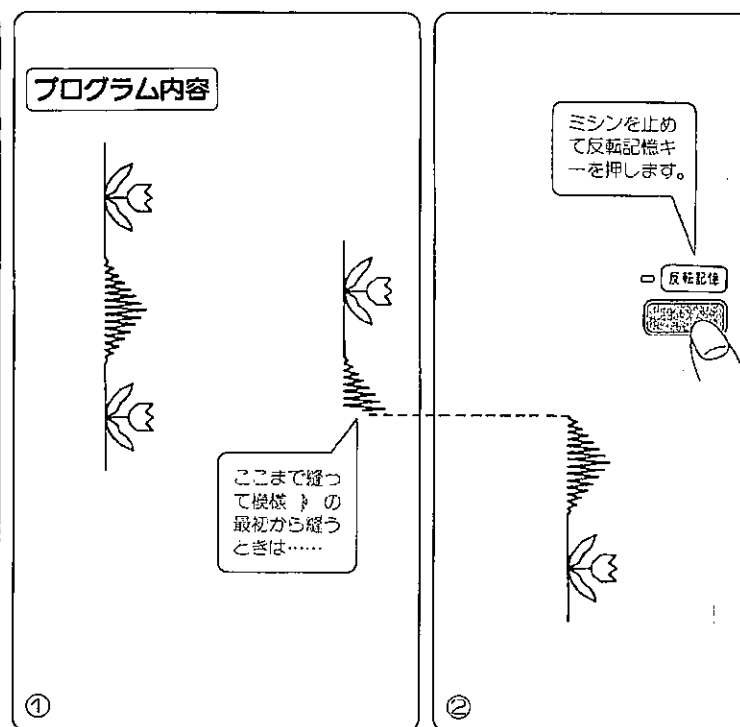
→ ×

＊模様 は、プログラム縫いができません。

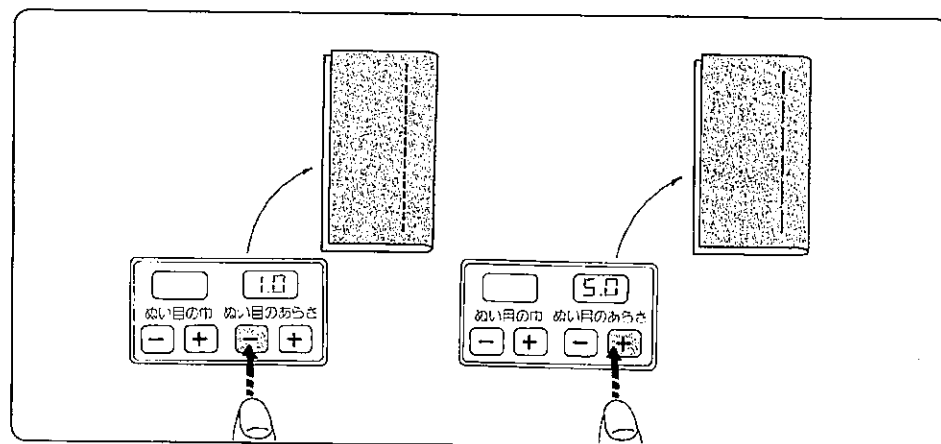
＊上の模様は、止め縫いを記憶していません。

＊○印をつけたところが、模様を縫いはじめる位置です。

＊模様 は、かがり縫いをするときの縫い目ですので、模様として使うと のようになります。

★プログラム縫いを途中でやめたとき

《プログラムのはじめに戻すには》(先頭頭出し)

《縫いかけた模様の最初から縫うには》(途中頭出し)

直線状の縫い目いろいろ

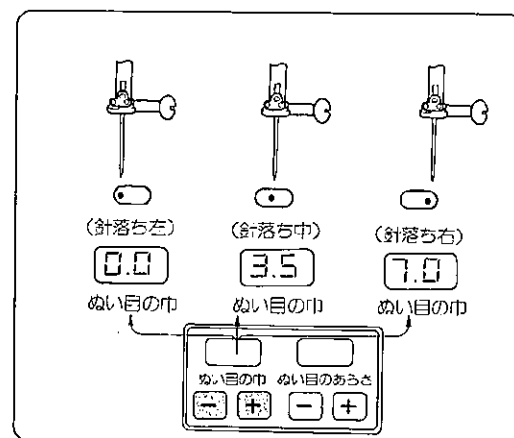
縫い目	模様（針落ち）	ミシンのセット			使い方
		液晶表示板	糸調子ダイヤル		
	（左）			A基本押え	電源を入れると、直線縫い に自動セットされます。縫い目のあらさは、家庭でふつう使われる厚い布からうすい布までに合わせてあります。 ＊針や糸の種類によっては、模様 で縫うとよい場合があります。
	（中）			Eファスナー押え	ファスナーつけに使います。
（自動返し縫いつき）	（左）			A基本押え	縫いはじめから数針縫うと、自動的に返し縫いをしてからふつうの縫いに戻り、ほつれ止めをします。 縫いおわりのところまできたら、返し縫いキー を1度押し、指をはなしてもコントローラーを踏みつづけると数針返し縫いをしてから自動的に止まります。
（直線三重縫い）	（左）			A基本押え	伸縮性のある強い縫い目なので、補強縫いに便利です。
	（中）			A基本押え	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。また、直線状なので縫いしろを割ることができ、ニット、トリコットなどの縫い合わせに便利です。
	（左）			A基本押え	縫い目のあらい三重縫いです。飾りミシンや刺子風にも使えます。

★縫い目のあらさをかえるとき

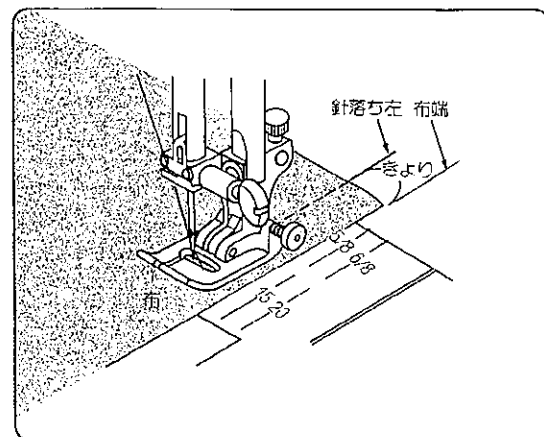
○縫い目のあらさ調節キー [－] または [＋] を押すと、縫い目のあらさをかえることができます。

＊縫い目のあらさ調節キー [－] または [＋] を押すと、自動セットの数値が表示されます。[－] を押すと数値が小さくなり、縫い目が細かくなります。[＋] キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目があらくなります。

＊縫い目のあらさ調節キーを押しつづけると、表示される数値が速くかわります。

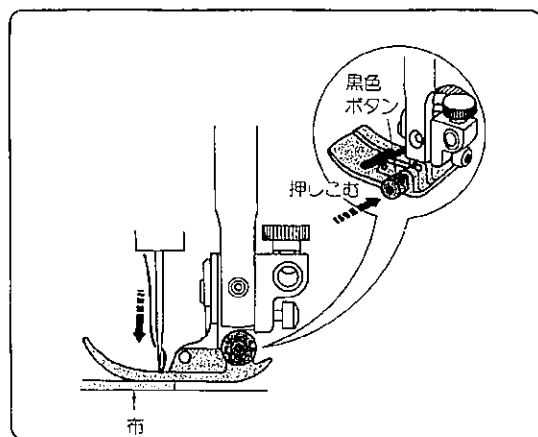
＊返し縫いの縫い目のあらさは、0.25cm以上にはなりません。

★直線縫いの針落ちをかえるとき

○直線状の縫い目、模様 [模様] は、針落ちをかえることができます。
縫い目の巾調節キー [－] または [＋] を押して、針落ち位置をかえます。

★針板ガイドラインの利用

布端を針板のガイドラインに合わせて縫います。

＊数字は、針落ち左から布端までのきよりです。

数　字	15	20	4/8	5/8	6/8
きより（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

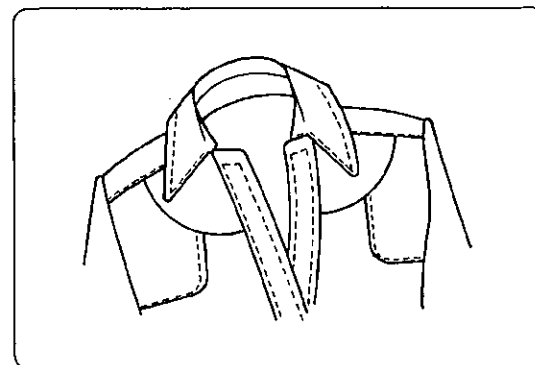
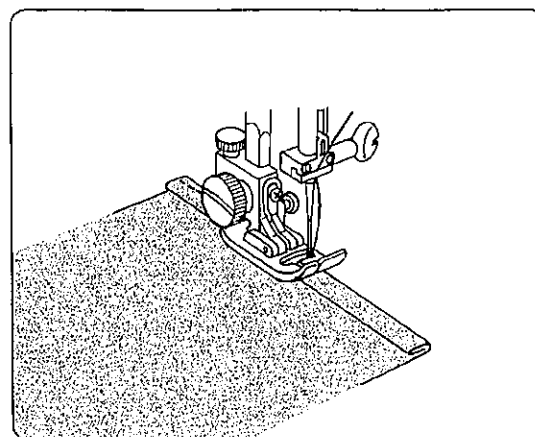
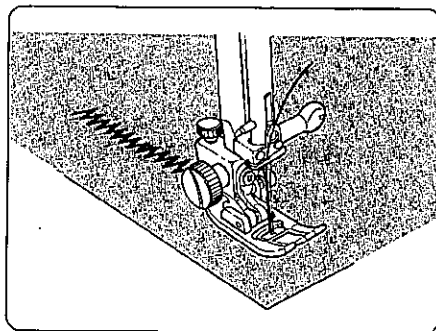
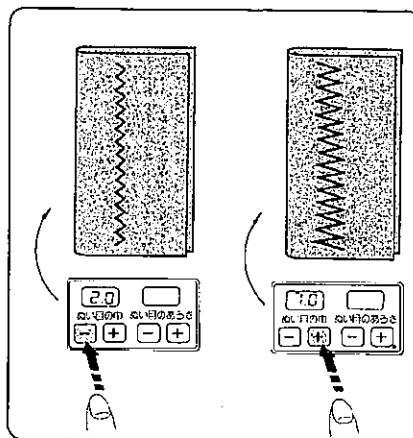
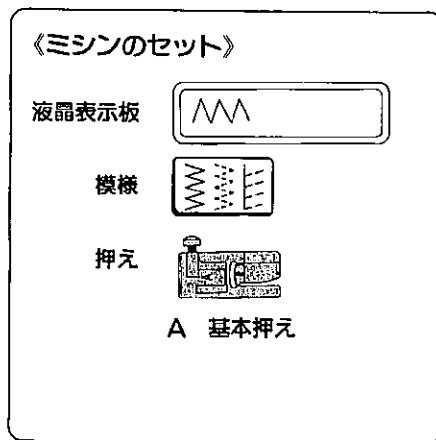
★厚手の布端の縫いはじめ

①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押え上げをさげます。

③ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

★折り巾のせまい布の縫い方およびトップステッチ

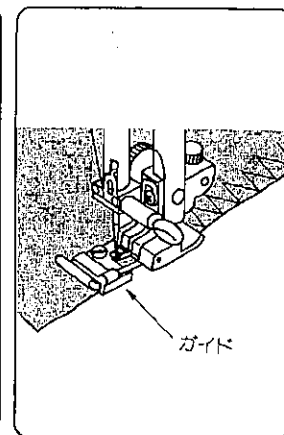
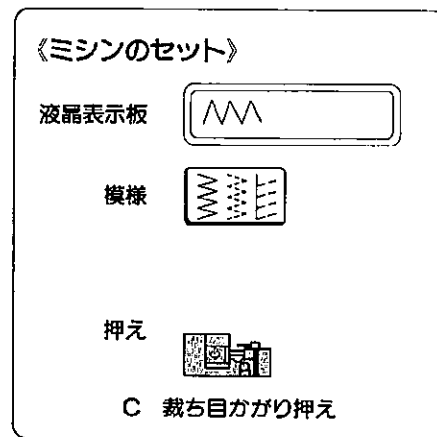
針落ち右で縫います。

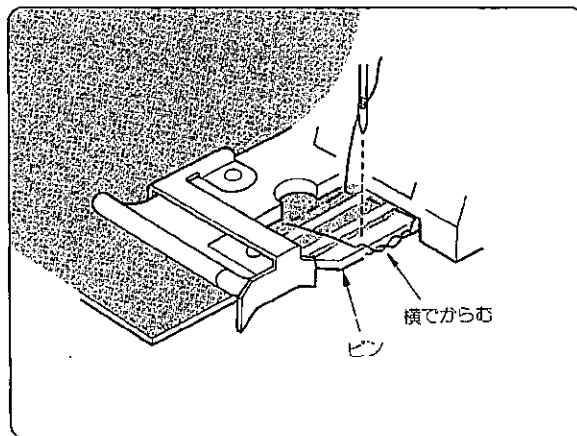
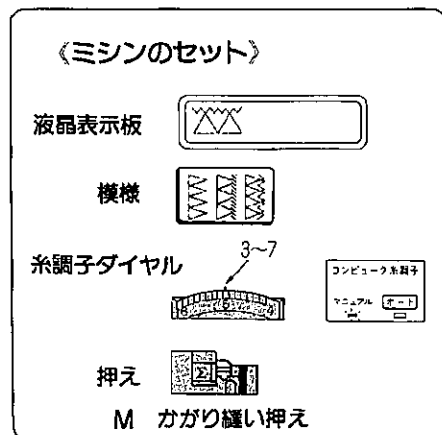
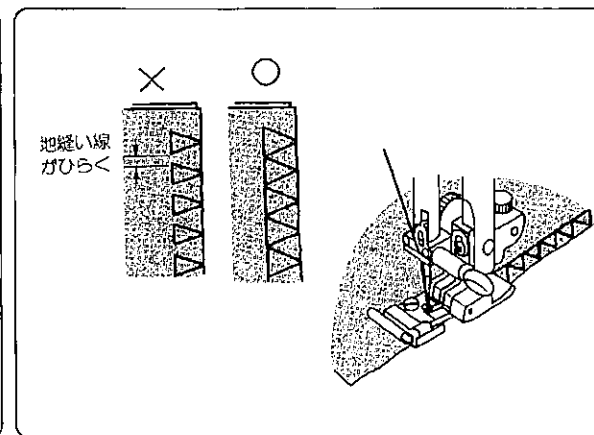
ジグザグ縫い

裁ち目かがりとかがり縫いステッチ

★縫い目の巾をかえるとき

○縫い目の巾調節キー [−] または [+] を押すと、縫い目の巾をかえることができます。

＊縫い目の巾調節キー [−] または [+] を押すと、自動セットの数値が表示されます。[−] キーを押すと表示される数値が小さくなり、縫い目の巾はせまくなります。[+] キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目の巾は広くなります。

＊縫い目の巾調節キーを押しつづけると、表示される数値が速くかわります。

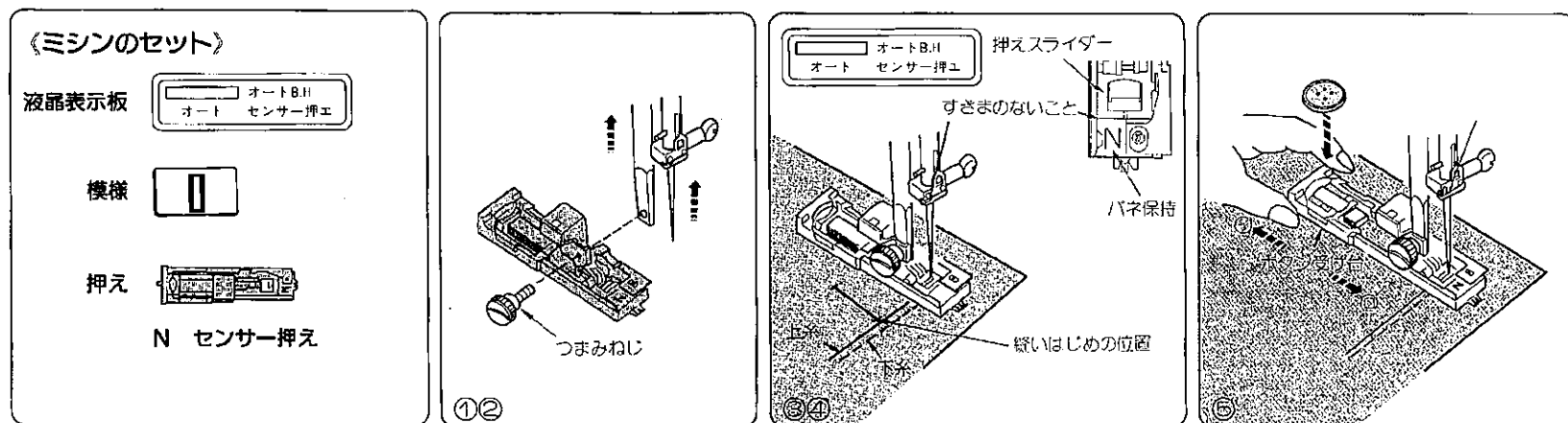
★裁ち目かがりとかがり縫いステッチ

布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

★かがり縫いステッチの例

○押え外側のピンの横で上糸と下糸がからみ合うように糸調子ダイヤルで調整します。

○伸縮性のある布など地縫い線がひらいてきれいに縫えないときは、押え圧ダイヤルを「1」または「2」にして縫います。
それでも地縫い線がひらくときは、縫い目のあらさを「2.5」にしてください。

＊縫い目の巾はかえられません。

縫い目	模様	ミシンのセット			使い方
		液晶表示板	糸調子ダイヤル		
トリコット縫い 裁ち目かがり			コンピュータ糸調子 マニュアル オート	A基本押え	布端を押えの右端よりやや内側にし、縫り糸を1～2本残すようにして縫います。 ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
ニット ステッチ				A基本押え	縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを縫い目の近くで切り落とし、片方に倒して仕上げます。かがり縫いステッチと同じく、かがり縫いと地縫いが同時にできるので、ほつれやすい布や、伸縮性のある布で、縫いしろを割らなくてもいいものの縫い合わせに適しています。
ジグザグ縫い 裁ち目かがり				C裁ち目かがり押え	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。
かがり縫い ステッチ				C裁ち目かがり押え	地縫いをかねたかがり縫いに利用します。また裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
かがり縫い ステッチ				C裁ち目かがり押え	中、厚地のしっかりした布端をかがるときに利用します。
かがり縫い ステッチ			コンピュータ糸調子 マニュアル オート 3～7	Mかがり縫い押え	オーバーロックの縫い目に似ていて、布端がほつれやすい布地のかがり縫いや、裁ち目かがりに利用します。

＊C裁ち目かがり押え、Mかがり縫い押えを使用するときは、縫い目の巾調節キーを使わないでください。

オートボタンホール

＊ボタンホールの長さは、使用するボタンをセンサー押えのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。

＊ボタンの直径が３㎝まで、ボタン穴かがりができます。

＊ボタン穴かがり巾は、シャツなどのボタン穴の巾に自動セットされていますので、コートなどの巾の広いボタン穴かがりをするときは、46ページをごらんください。

＊縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

＊伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。

①上下停針キーを押して針をあげ押え上げをあげます。

②つまみねじを外し、センサー押えを取りつけます。

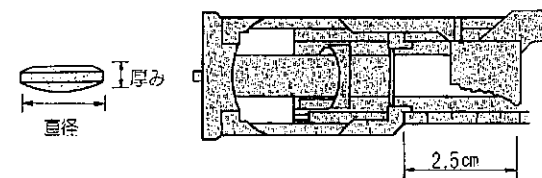
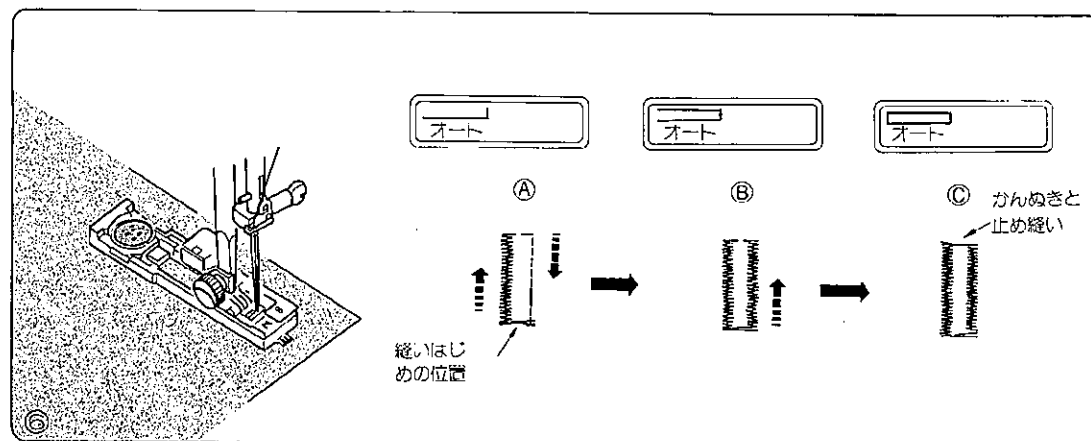
③上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

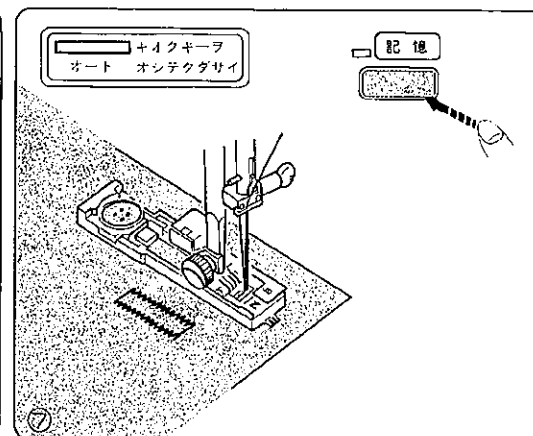
④縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

＊押えスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。

⑤ボタン受け台を㋑方向に引き、ボタンをのせて㋺方向に戻しはさみます。

＊使用するボタンの厚みが0.4㎝以上ある場合にはボタンの直径と厚みを測りその数値にスケールを合わせるようにボタン受け台をセットします。

(例)直径２㎝厚み0.5㎝のボタンの場合スケールを2.5㎝(２㎝+0.5㎝)にセットします。

⑥自動的に止まるまでコントローラーを踏み続けて縫います。

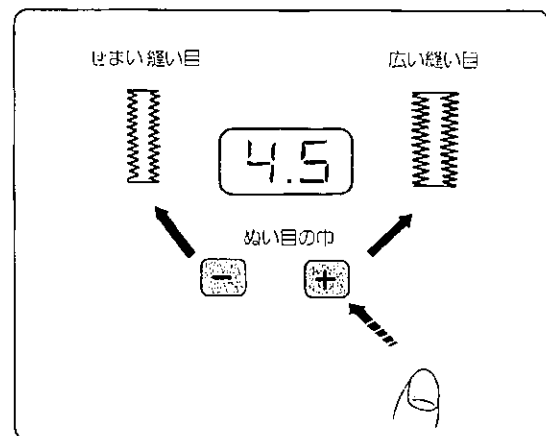
＊縫っていく順序は、　Ⓐかんぬきと左側のボタン穴かがり縫いをします。
Ⓑ右側のボタン穴かがり縫いをします。
Ⓒかんぬきと止め縫いをして自動的に止まります。

⑦引き続きオートボタンホール縫いをする場合には、記憶キーを押してコントローラーを踏んでください。

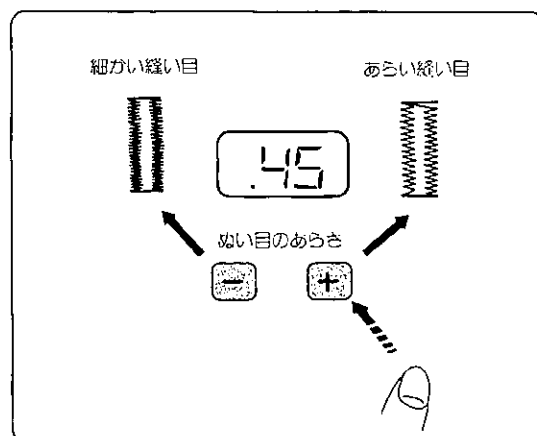
＊縫いの途中でボタンホールの位置などでまちがいに気づき、ミシンを止め、押え上げをあげたときには、液晶表示板には、［キオクキーヲ オート オシテクダサイ］が表示されませんが記憶キーを押すと［オート］が表示されますのではじめから縫いなおしてください。
＊ボタン穴のひらき方は、50ページをごらんください。

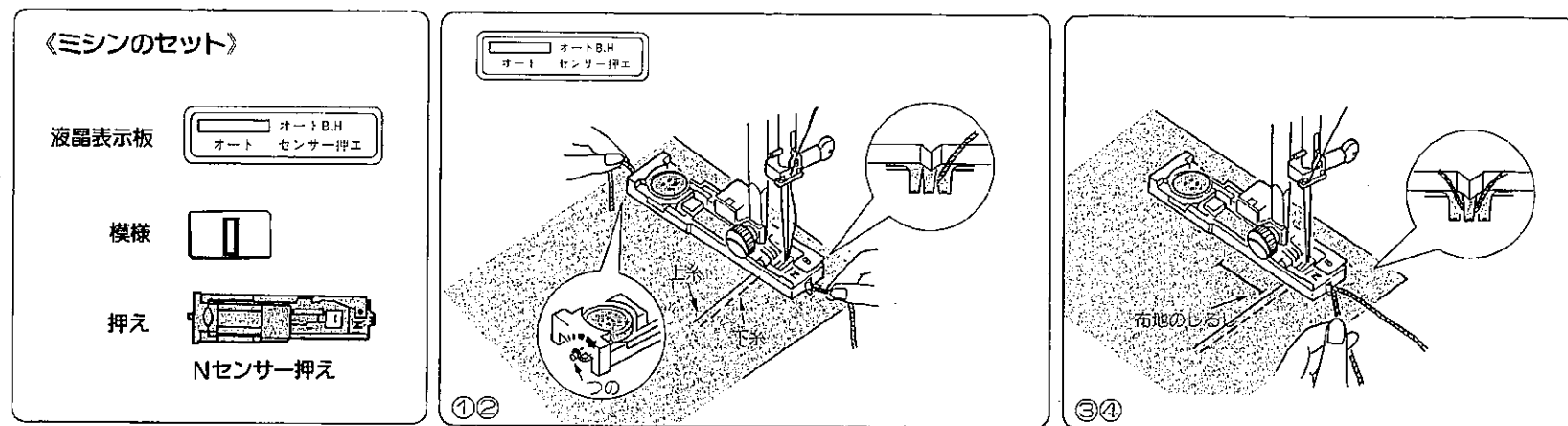
★縫い目の巾をかえるとき

せまい縫い目　広い縫い目

4.5

ぬい目の巾

縫い目の巾調節キー [−] または [+] を押すと自動セットされている数値4.5が表示されます。
縫い目の巾をかえるには、[−] または [+] キーを押して2.5〜7.0の範囲でかえてください。

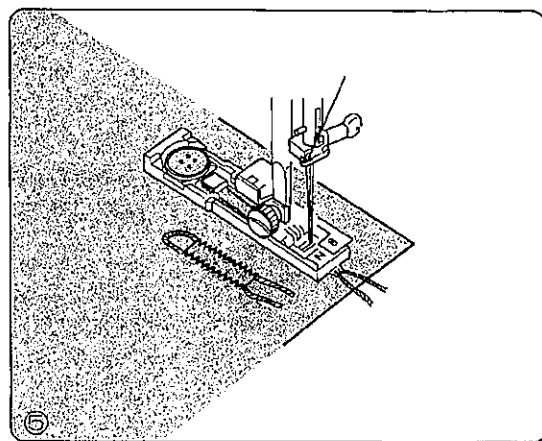
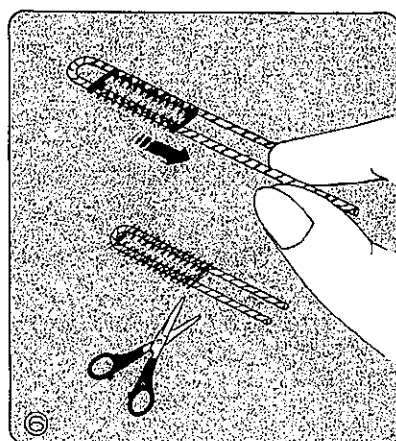
★縫い目のあらさをかえるとき

縫い目のあらさ調節キー [−] または [+] を押すと自動セットされている数値0.45が表示されます。
縫い目のあらさをかえるには、[−] または [+] キーを押して、0.2〜1.0 の範囲でかえてください。

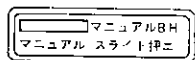
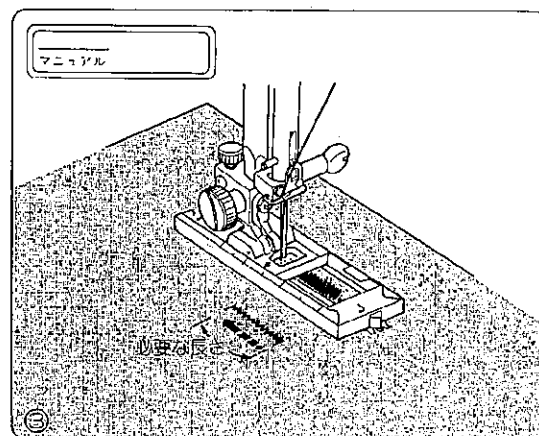
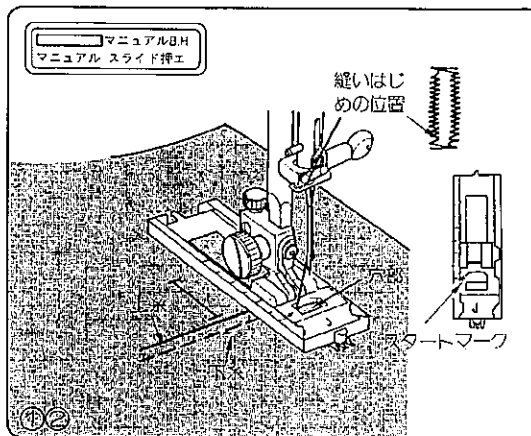
芯入りオートボタンホール

＊縫い目の巾は、芯糸に合わせてセットします。

①上糸と下糸を横に引き出しそろえます。

②センサー押え前部の、右側切り込みに芯糸の一方の端をはさみ、芯糸を、押えの下から後ろに引き、つのに掛けます。

③つのに掛けた芯糸を、押えの下を通して、前部左側の切り込みに、しっかりはさみます。

④布地のしるしに針先を合わせ押え上げをさげます。

⑤コントローラーを踏み、オートボタンホールを縫います。

⑥左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

ボタン穴かがり(マニュアルボタンホール)

＊縫い目の巾やあらさをかえたいときは、46ページをごらんください。

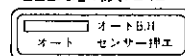
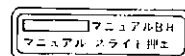
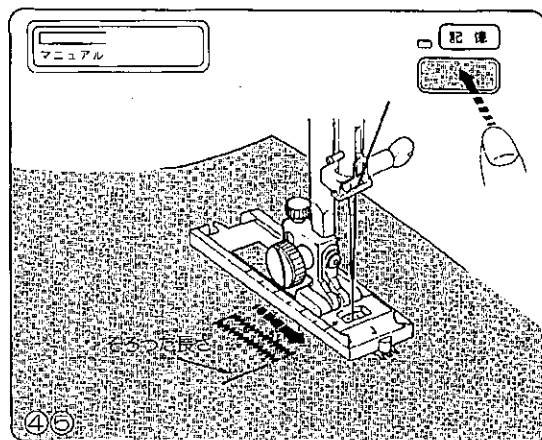
＊左右の縫い目のあらさがそろわないときは、84ページをごらんください。

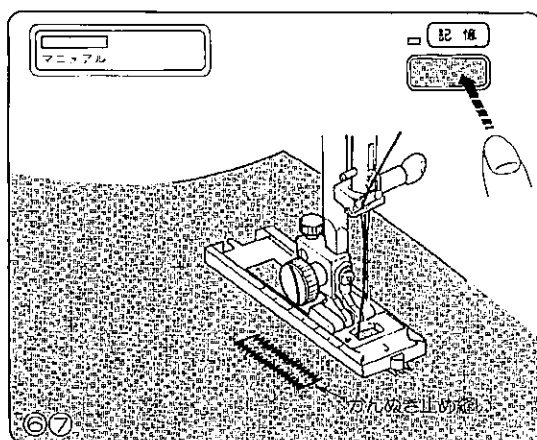
①上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

②縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。

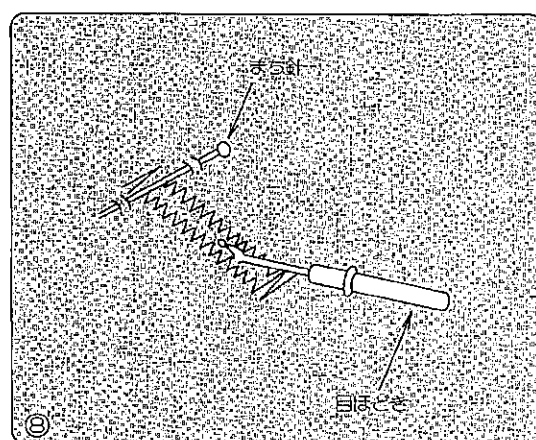
＊模様選択キー を押すごとに、液晶表示板には

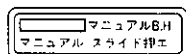
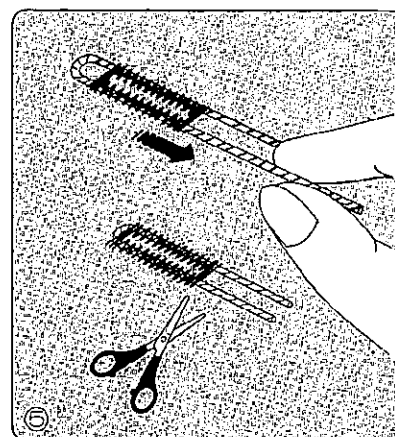
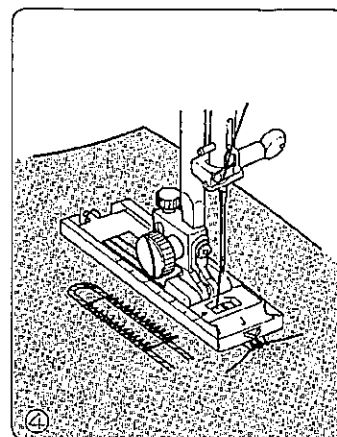
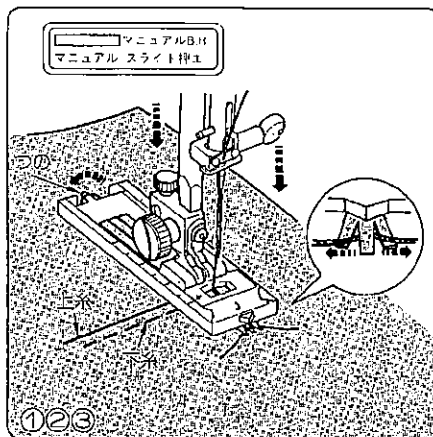
と が交互に表示されます。

③コントローラーを踏み、必要な長さだけ縫ったらコントローラーの踏みこみを止めます。

④記憶キーを押します。

⑤コントローラーを踏み、かんぬきと右側を縫い、縫いはじめの位置に戻ったら、ミシンを止めます。

⑥記憶キーを押します。

⑦コントローラーを踏んで、かんぬきと止め縫いをします。針の動きが自動的に止まったら、コントローラーの踏みこみを止めます。

＊引き続き、ボタン穴かがりをするときは、①～⑦の手順で行なってください。

⑧かんぬきの内側にまち針を縫いさして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

芯入りボタン穴かがり

＊縫い目の巾は、芯糸に合わせセットします。

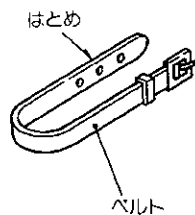
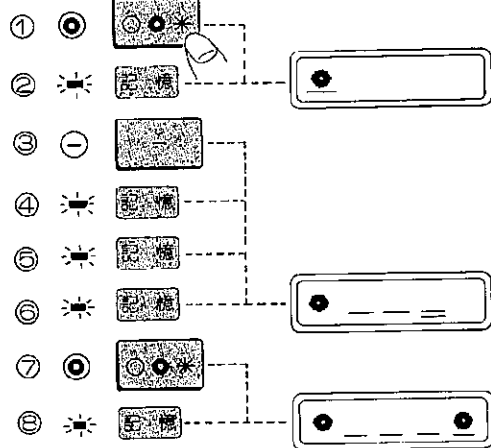
①上糸を、押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

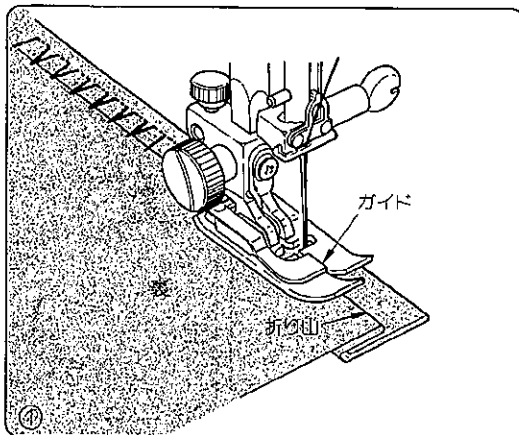
②芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

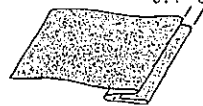
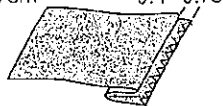
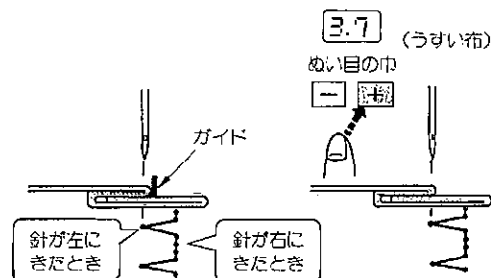
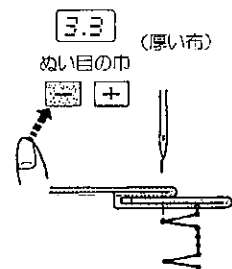
③縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。

④コントローラーを踏み、ボタン穴かがり手順③～⑦(49～50ページ)と同じように縫います。

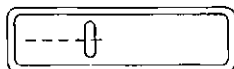
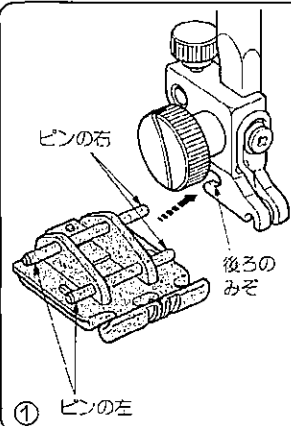
⑤左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

アイレット

○縫い目の内側をスクリューポンチかシームリッパーで穴をあけます。

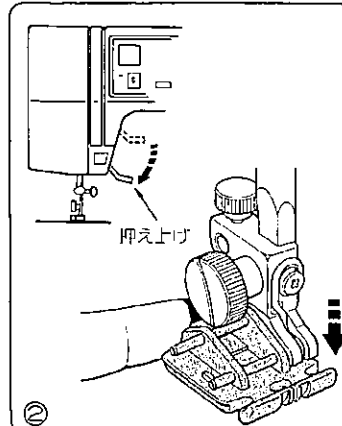
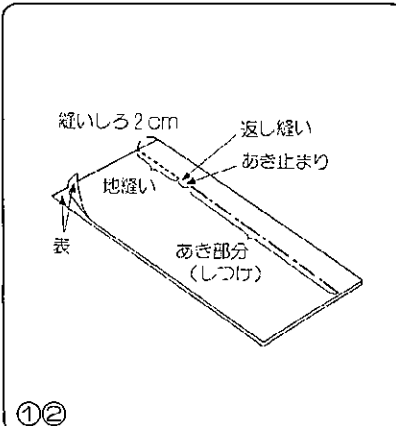
くけ縫い(まつり縫い)

＊伸縮性のある布を縫うときは、模様 を選びます。

①ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫い目の巾調節キーで針落ちを調節して縫います。

○針落ちが右に移動します。　○針落ちが左に移動します。

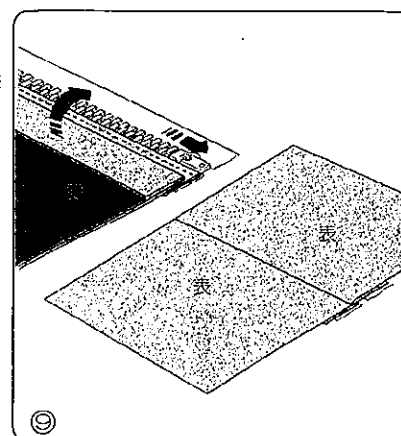
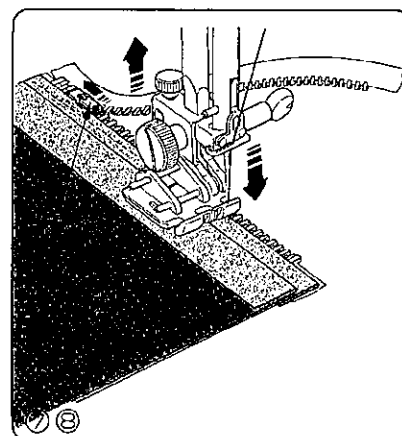
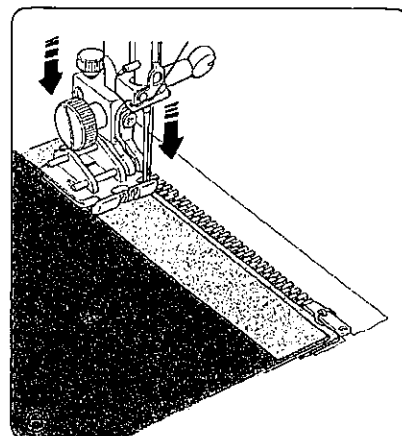
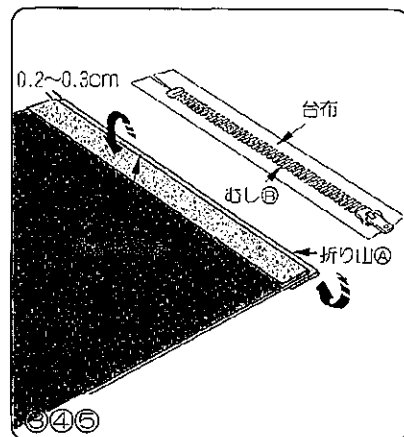
ファスナーつけ

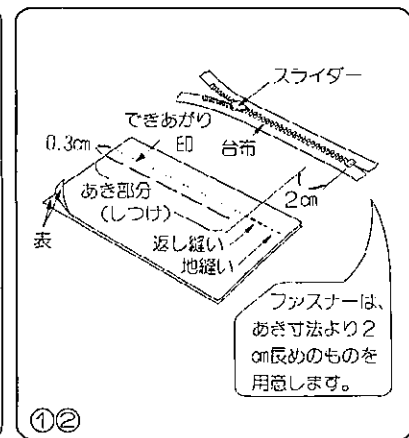
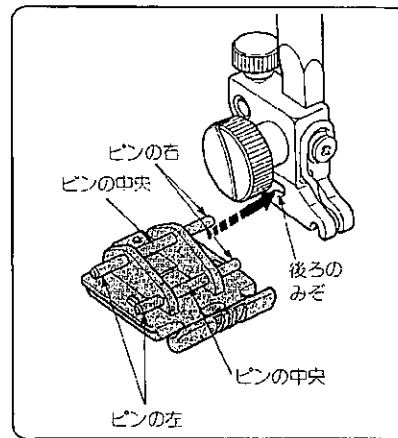
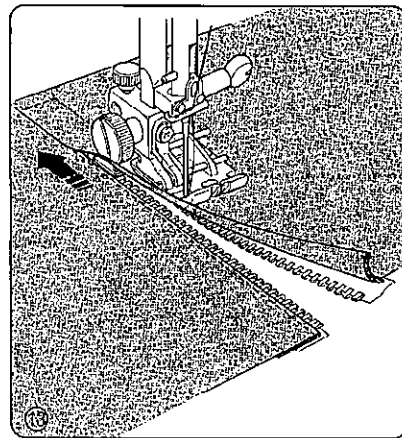
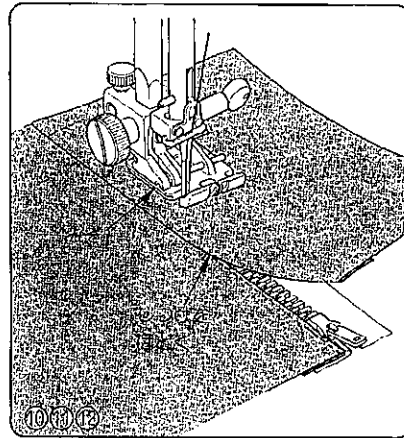
★ファスナー押えのつけ方

①押えの後ろのピンをホルダーの後ろのみぞに掛けます。

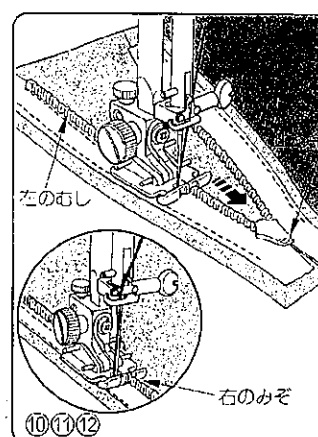
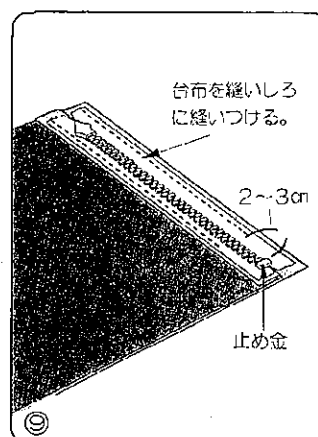
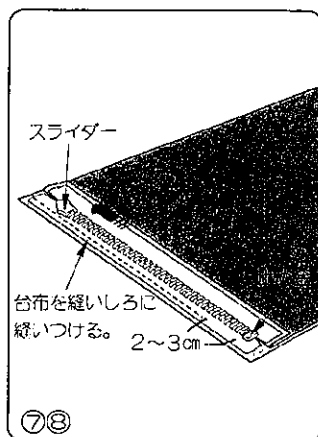
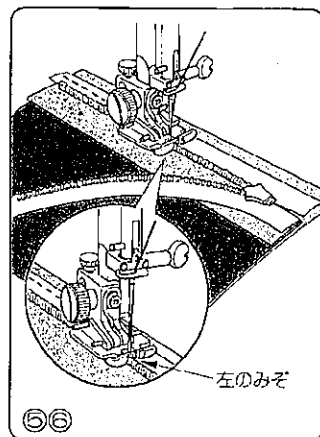
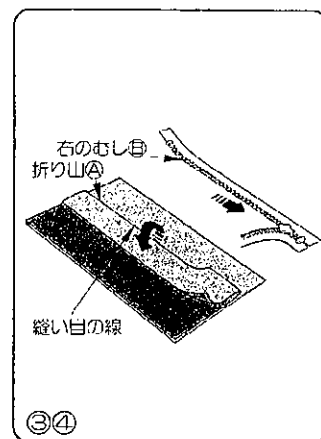
②指で軽くささえながら、静かに押え上げをさげます。

＊むしの左側を縫うときは、ピンの右に、むしの右側を縫うときは、ピンの左に、ホルダーのみぞを合わせてファスナー押えをとりつけます。

★準備

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

②あき部分は、しつけをします。

★縫い方

③上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。
④下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返します。
⑤ファスナーのむしⒷを、折り山Ⓐにそわせて、布をファスナーの台布にのせます。
⑥押えのピンの右を押えホルダーにとりつけます。
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。

⑦押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。
⑧上下停針キーを押して針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。
⑨針をあげ、スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。

⑩押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
⑪押えがスライダーにあたる手前でミシンを止めます。
⑫上下停針キーを押して針を布にさし、押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。
⑬針をあげ、スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

*ミシンのセットは、54ページをごらんください。
*むしの左側と右側を縫うときは、ピンの中央に、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右、台布の右側を縫うときはピンの左にとりつけてください。
①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。
②あき部分は、地縫い線（できあがりの印）から、0.3cm内側に「しつけ」をします。

③上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。

④ファスナーをひらいて、右のむしⒷを、折り山Ⓐにあてておきます。

⑤押えのピンの中央を押えホルダーにとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。

⑥むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

⑦押え上げをあげて、スライダーをとじます。

⑧押えのピンの右を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、左側の台布の端を縫いしろに、止め金から2～3cmのところまで縫いつけます。

⑨押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、スライダーの下の身頃を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2～3cmのところまで縫いつけます。

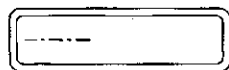
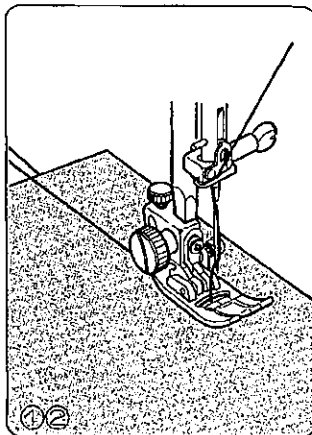
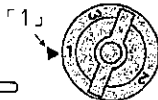
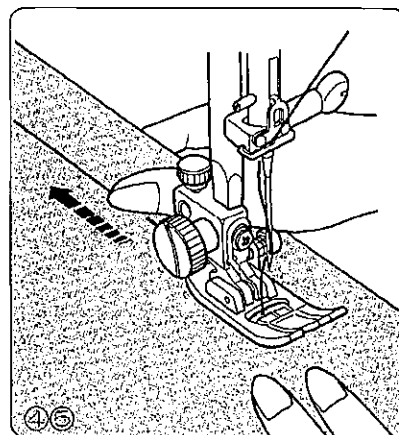
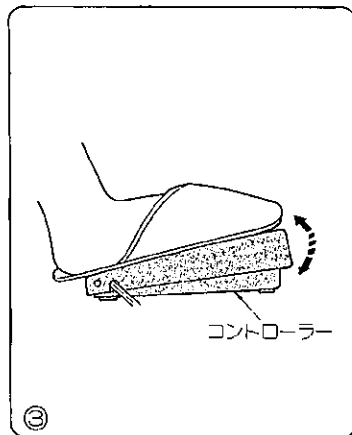
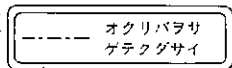
⑩押えのピンの中央を押えホルダーにつけかえ、しつけをほどき、スライダーの下の身頃を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいにひらきます。

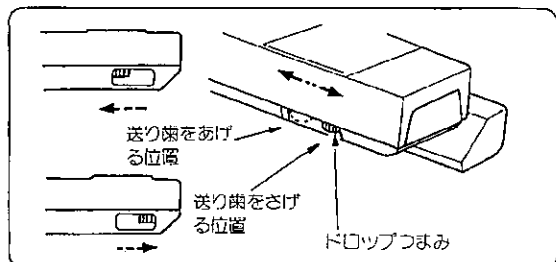
⑪左のむしをおこして押えの右のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように押えをやや左によせて押え上げをさげます。

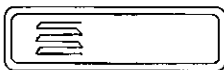
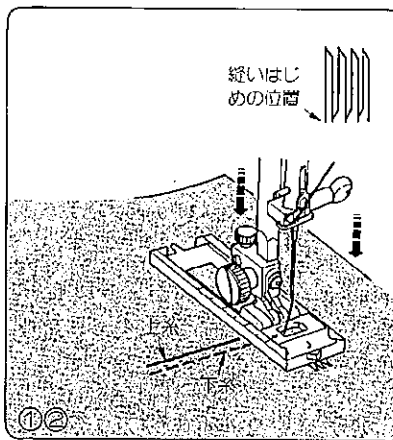
⑫むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

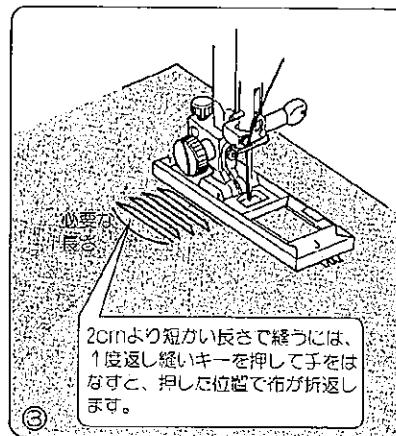
しつけ

＊ミシンの針目が残ると困るような布は、さけてください。
糸はジャノメミシン直営支店で販売しているミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

＊送り歯が上っている状態でしつけ模様を選んだとき液晶表示板に［オクリバヲサゲテクダサイ］のメッセージがでます。

①上糸と下糸を、向こう側に引いて、押え上げをさげます。
②布を前後にピンと張って、縫いはじめます。
③コントローラーをいっぱいに踏みこみ、1針縫って針が止まったら、つま先をあげます。

④縫い目をつまんで、布を向こう側へ引き、さらに②~③の手順をくり返します。
⑤縫いおわったら、糸と布を指で押さえて、向こう側に引き出し、糸を切ります。

《ドロップつまみの使い方》

＊通常は送り歯をあげる位置［］にセットしておきます。

＊縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」、ドロップつまみを［］に戻しておきます。

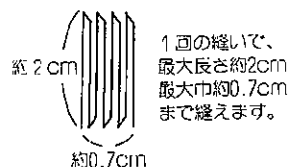
ダーニング（つくろい縫い）

①上糸を、押えの穴から下に通し、横に引き出して 下糸とそろえます。

②押えの下に布を入れ、縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。

③最初に必要な長さまで縫い、返し縫いキーを押して、針が自動的に止まるまでコントローラーを踏み続けます。

④布の向きをかえて①～③の手順をくり返します。

《ダーニングの記憶》

補修する巾が広くて、くり返し同じ長さのダーニングをするときは、③の手順のあとに記憶キーを押します。押え上げをあげて布を左にずらし、縫いおわった位置に針をさして押え上げをさげ、ふたたび縫います。

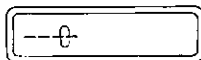
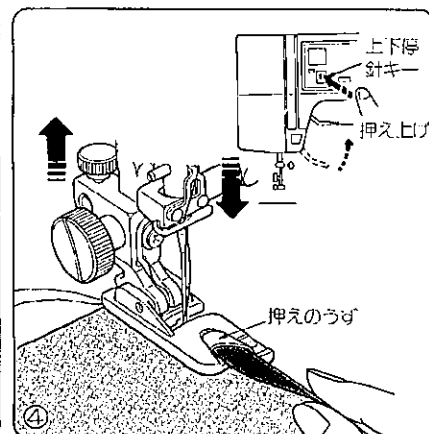
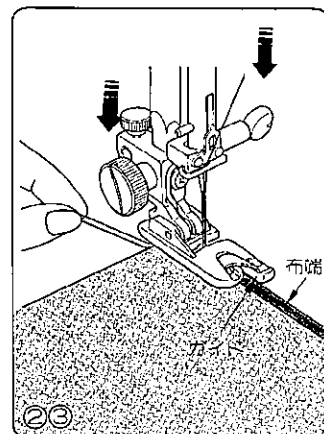
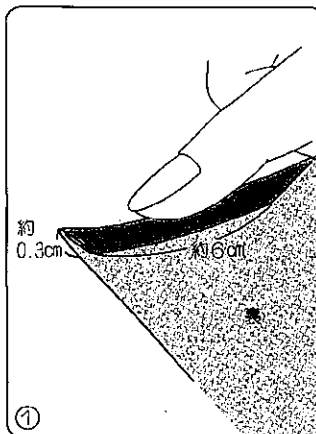
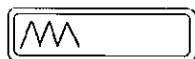
約2cm　約0.7cm

1回の縫いで、最大長さ約2cm 最大巾約0.7cm まで縫えます。

＊はじめから縫いなおすときは、模様 を選びなおしてください。

＊ダーニングの縫いはじめ（左側）と、縫いおわり（右側）の高さがそろわないときは、85ページをごらんください。

＊縫い目のあらさや縫い目の巾は、かえられません。

三つ巻き縫い

★直線三つ巻き縫い

★ジグザグ三つ巻き縫い

①布端の長さ約 6 cmを、約0.3cmの巾で 2 度折りまげます。

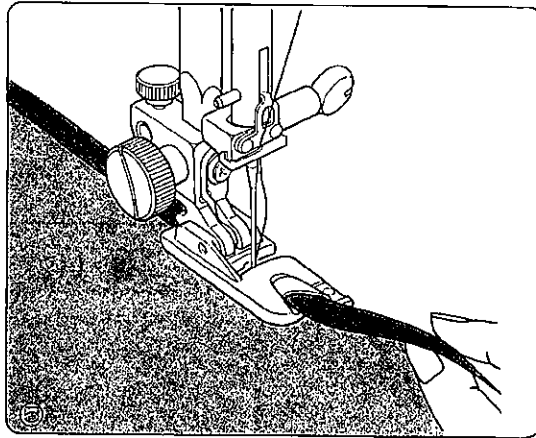
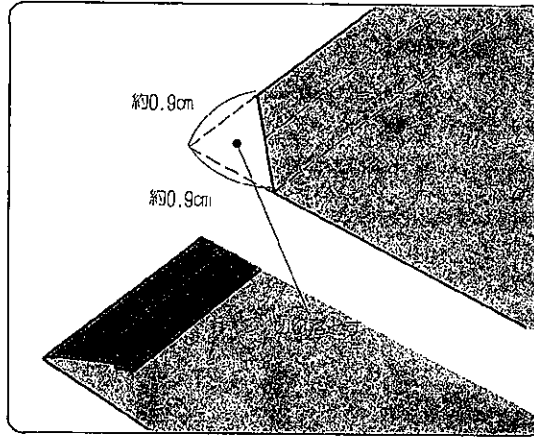
②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

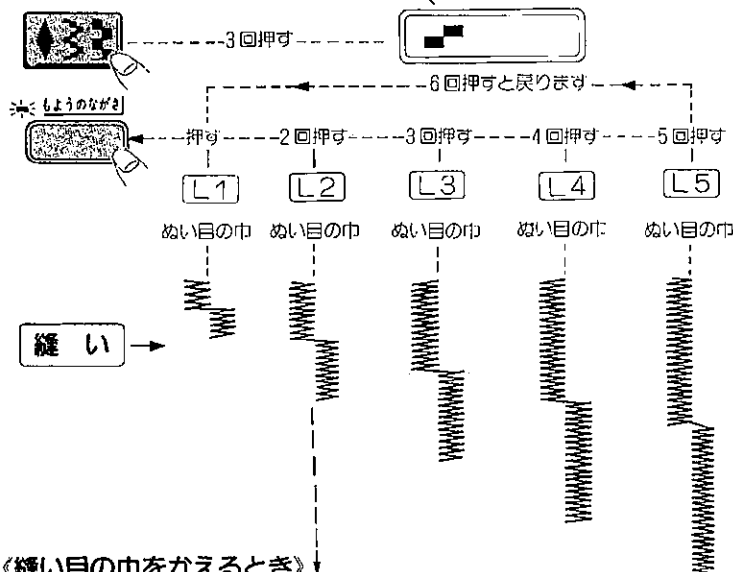
③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて 1 ～ 2 cm縫います。

＊折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと縫いやすくなります。

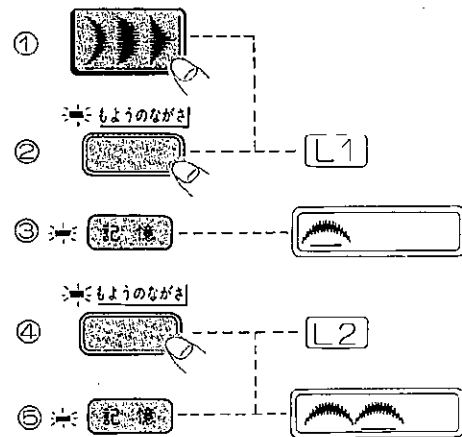
＊縫い方は、直線三つ巻き縫い、ジグザグ三つ巻き縫いとも同じです。

④上下停針キーを押して針をさし、押え上げをあげて折りまげた布の部分を、押えのうずの中に巻きこみます。

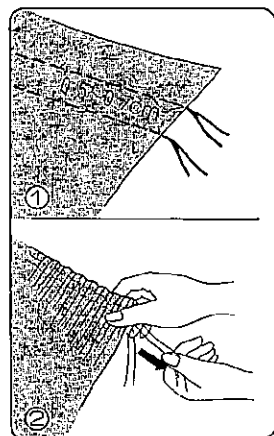
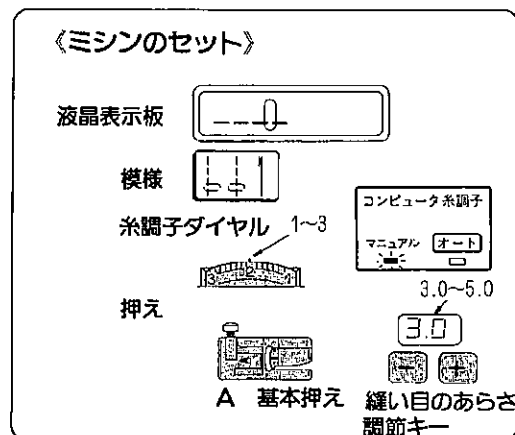
★布端のしまつ

⑥押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

エロンゲータ縫い

★エロンゲータ縫いの例

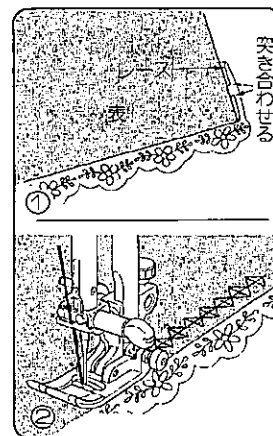
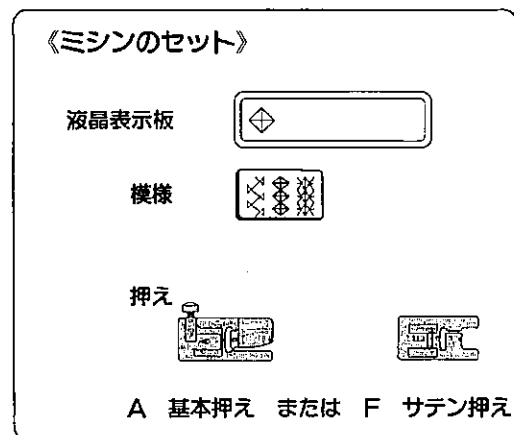
○模様の長さキーを使って、模様の長さを１～５倍に変えられます。

○模様は　が使えます。

○縫い目の巾または縫い目のあらさを変えると、模様はさらに変化します。

＊エロンゲータ縫いは７個の模様まで記憶します。

ギャザーよせ

①0.5~0.7cmの間かくで２本平行に縫います。

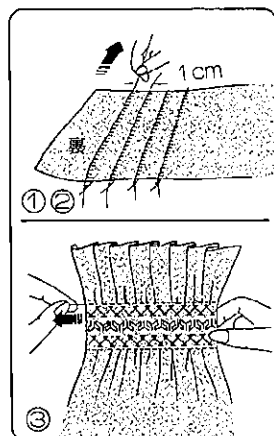
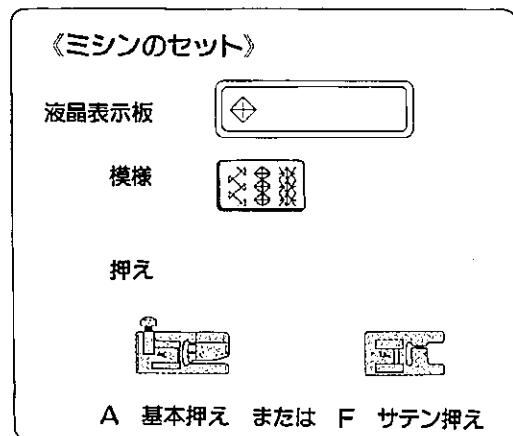
②布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせます。

レースつけ

＊模様は、が使えます。

①布端を裏側に、レースの端を表側に折り返して、折り返した部分のふちを、突き合わせます。

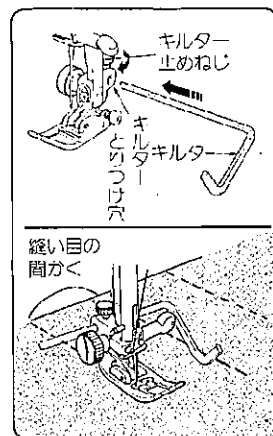
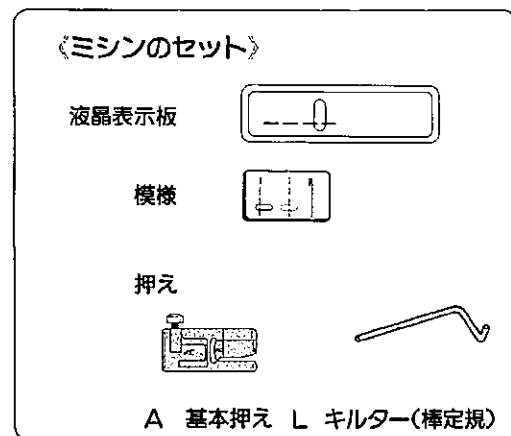
②布の表から突き合わせ線を中心にして縫います。

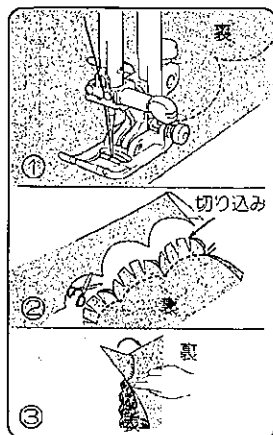
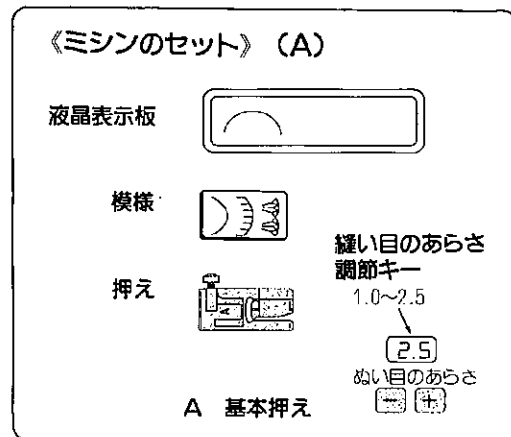
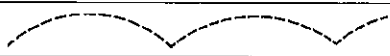
スモッキング

キルティング

＊模様は が使えます。

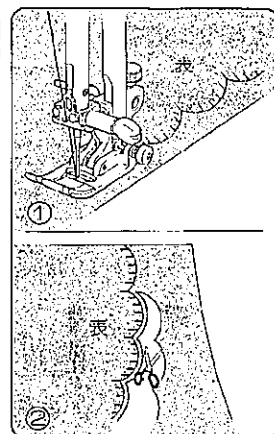
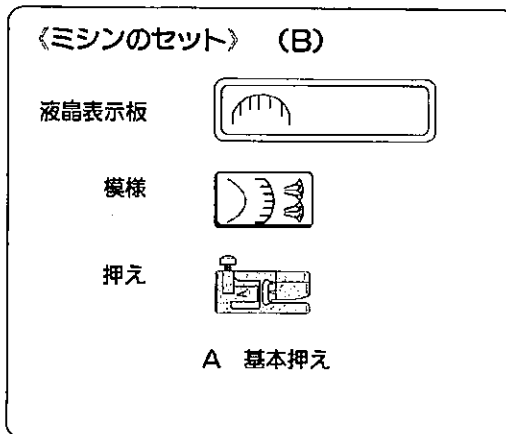
①糸調子ダイヤルを1～3にして、縫い目のあらさ0.3～0.4cmの直線を、1cmの間かくで数本縫います。

②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

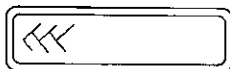
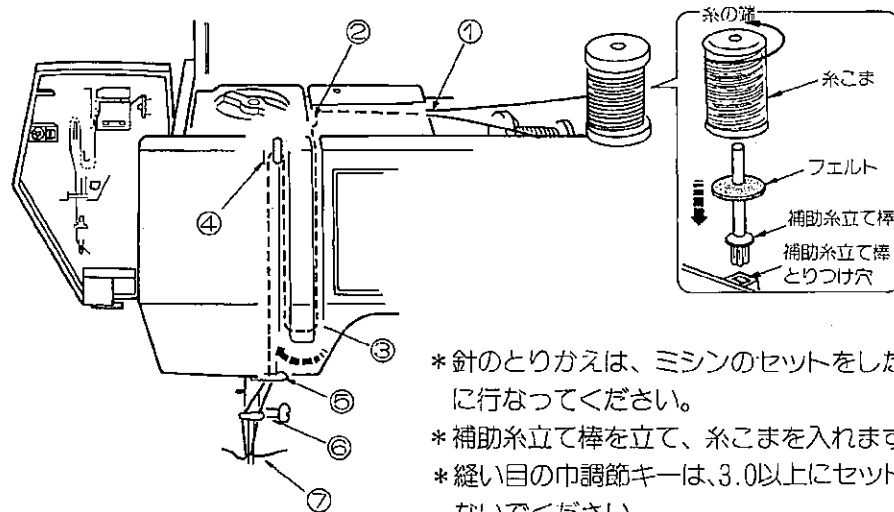
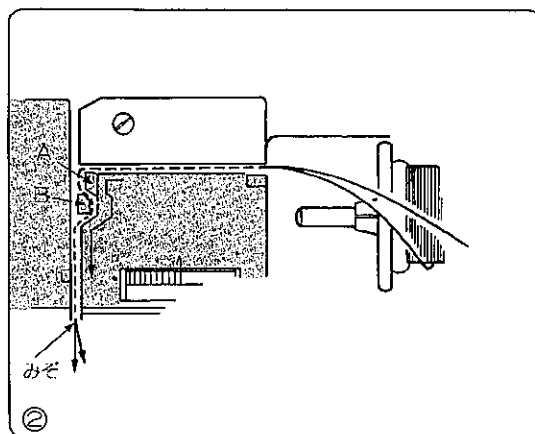
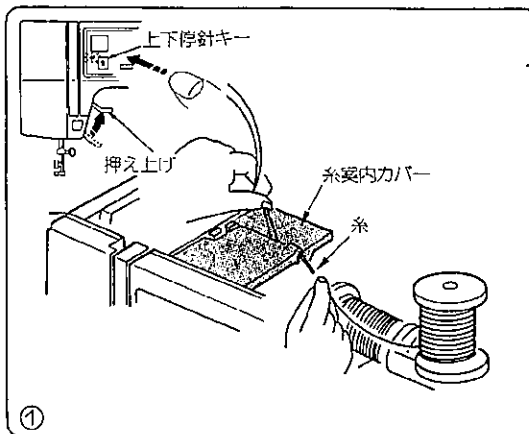
③直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

キルター止めねじをゆるめて、キルター（棒定規）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

＊キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

スカラップ

①布を中表に折り、その端を縫います。
②縫い目にそって、0.3cmくらい縫いしろを残して切りとり、縫いしろに切りこみを入れます。
③布を表に返して、スカラップの山を表に出し、アイロンで仕あげます。

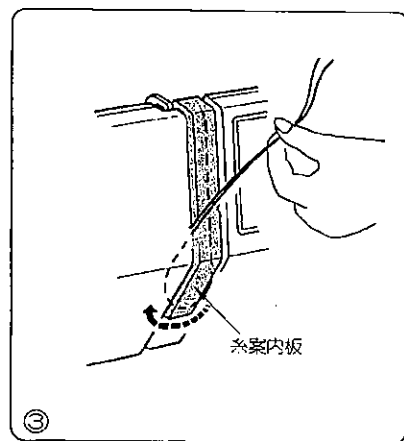
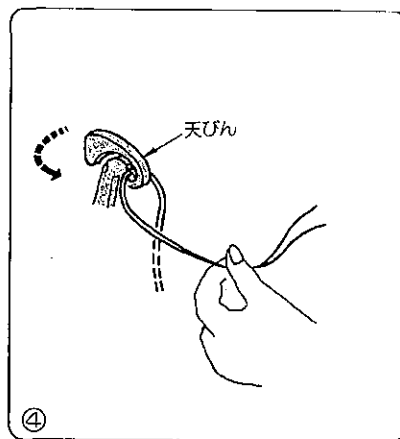
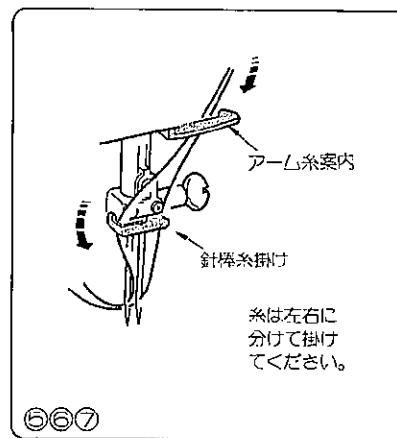
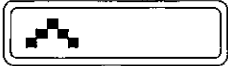
《縫い目のあらさ調節キーの操作でかわる縫い目の変化》

表示	縫い目の変化
2.5	
1.0	

①布を表から、布端を1cmくらい残して縫います。
②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。
＊布は返しません。

2本針縫い

＊針のとりかえは、ミシンのセットをした後に行なってください。
＊補助糸立て棒を立て、糸こまを入れます。
＊縫い目の巾調節キーは、3.0以上にセットしないでください。

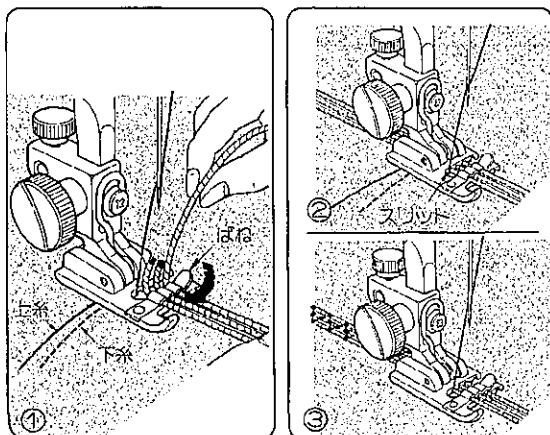
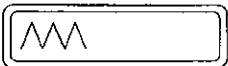
押え上げをあげ、上下停針キーを押して針を上げます。
2つの糸こまから引き出した2本の糸は途中でよじれないように、そろえて掛け、針棒糸掛けと針穴には、左右に分けて糸を通します。

①2本の糸をつまみ、糸案内カバーのすきまに糸を通します。
②糸案内Aと糸案内Bに糸をまわし、みぞにそって手前に糸を引き出します。

＊模様は) 〕 ⋮ ⋮ ≫ ≫ ≫ が使えます。

③糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。

④天びんに右からうしろへまわして左手前に出し、まっすぐ下におろします。

⑤アーム糸案内に右から掛けます。

⑥針棒糸掛けに左右に分けて掛けます。

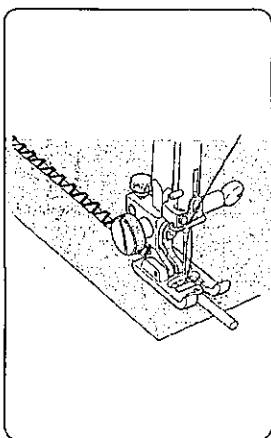
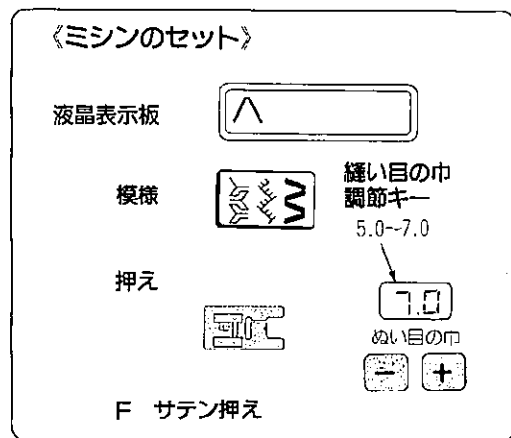
⑦2本針に左右に分けて糸を通します。

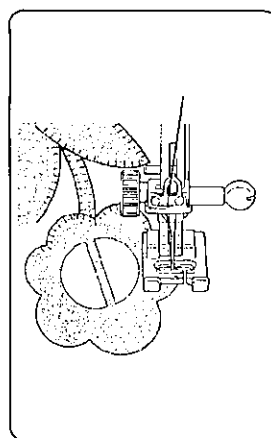
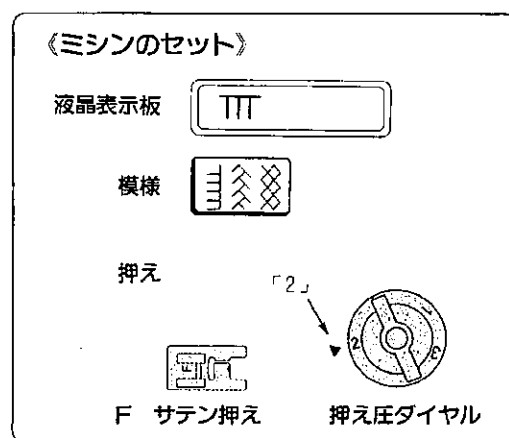
＊糸通しは使えませんので、針の手前から向こう側に、手で糸を通してください。

★ 3本ひものとき

①ひもを、押えのばねの下にくぐらせ、みぞに通します。
②向こう側に10cmくらい引き出し、押えのスリットから押えの下をくぐらせ、押えの裏のみぞに入れます。
③3本のひもを平行にそろえて、縫い目がひもにまだがるように縫います。

1本ひものとき

＊ 1本ひものときは、押えの中央のみぞを使います。

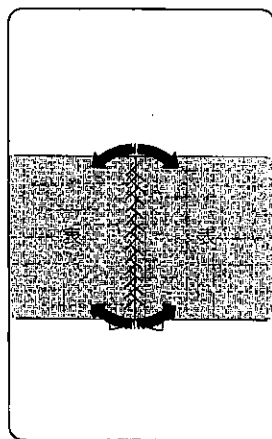
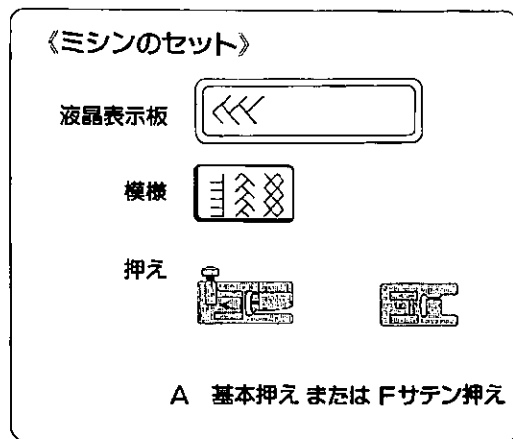
広巾コーディング

押えの下に0.5~0.6㎝のコードやブレードなどを入れて縫います。

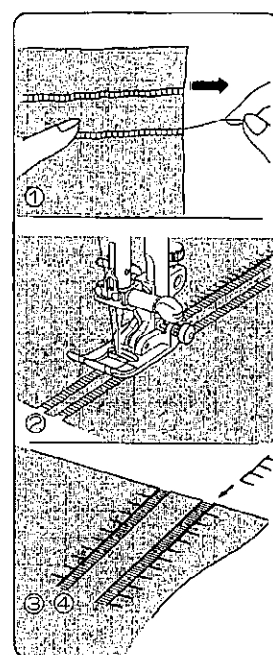
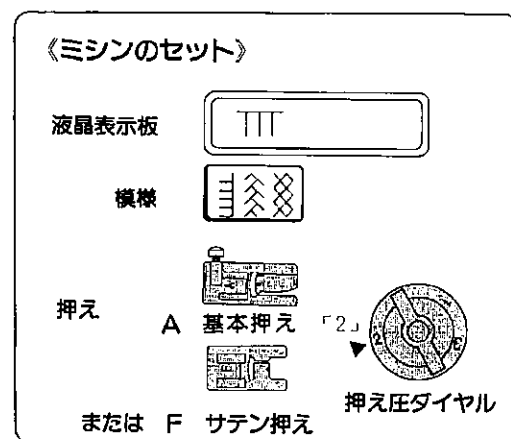
＊コードやブレードの縫いはじめの部分を同色の糸で布に止めておくと、抜け落ちるのが防げます。

アップリケ

アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。アップリケ布は、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

＊急角度のところで向きをかえるときには、上下停針キーを押して針を下位置にし、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

＊縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

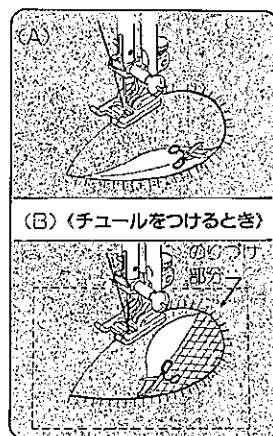
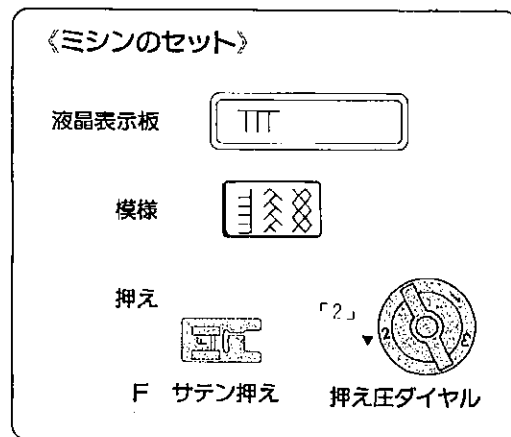
パッチワーク

＊模様は が使えます。

布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

ドロンワーク

＊模様は が使えます。

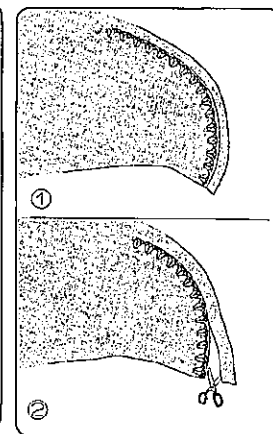
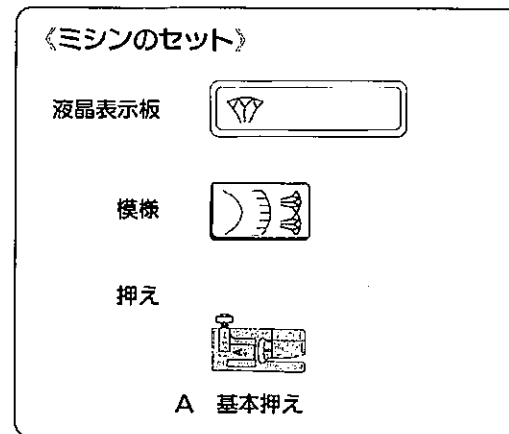
①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1～2本抜きとります。
②織り糸を抜いた左側を縫います。
③右側を縫います。

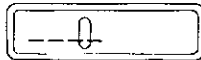
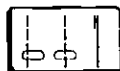
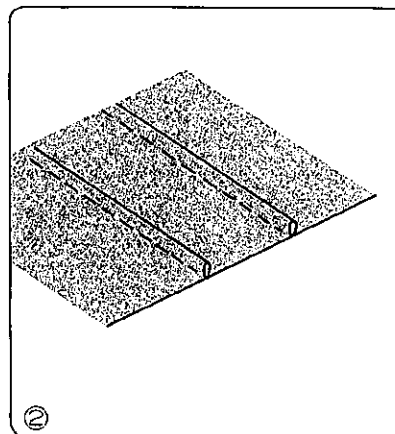
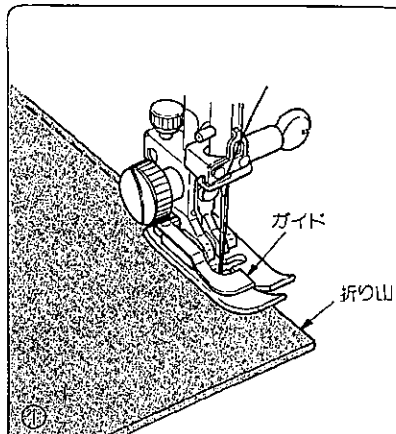
＊模様 は、反転記憶キーを押して右側を縫います。
④ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとります。
＊縫いおわったら、押え圧ダイヤル「3」に戻します。

カットワーク

(A)布の表から図案のふちをかがり、かがった糸を切らないように中を切り抜きます。

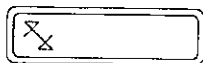
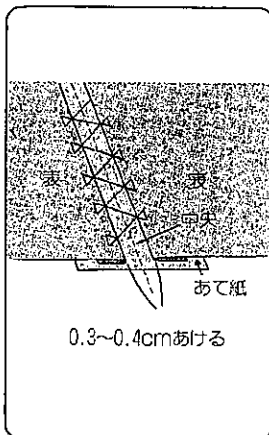
(B)布の裏に、図案の内側にはみ出さないように、糊をつけ、チュールをはりつけます。布の表から模様のふちをかがり、かがった糸と布の下のチュールを切らないように、布を切り抜きます。

＊縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)

①布の表から、布端を1cmくらい残して縫います。

②糸を切らないように、布端を切り落とします。

ピンタック

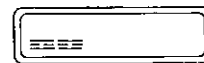
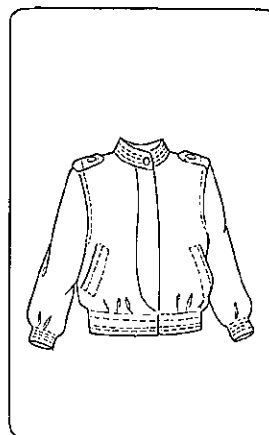
①布の折り山をガイドに当てて縫います。 ②アイロンで山を片側に倒します。

ファゴティング

＊模様は　　が使えます。

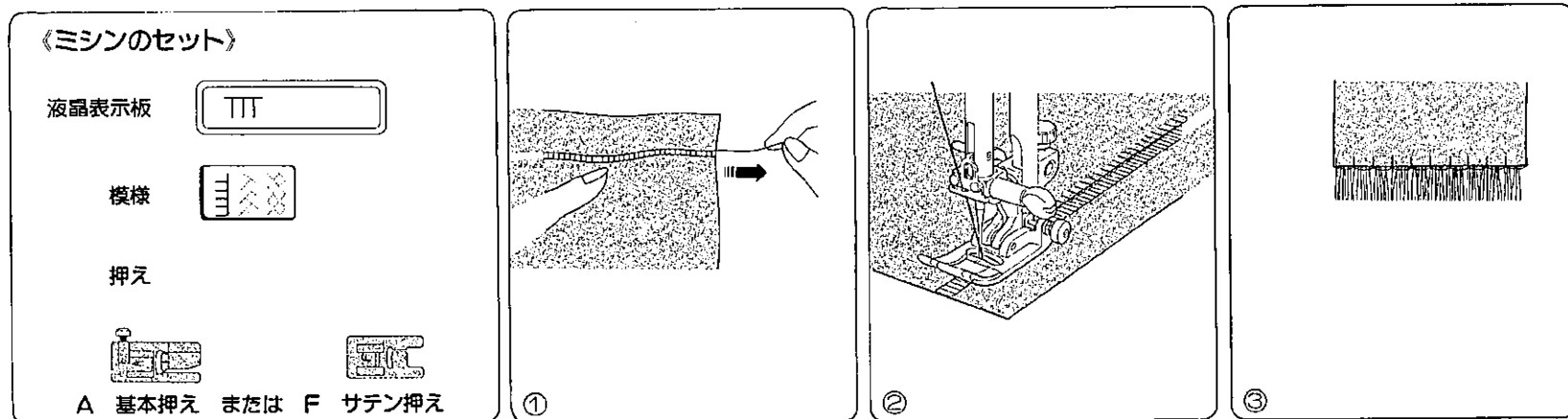
①布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

②布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。

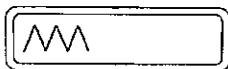
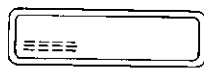
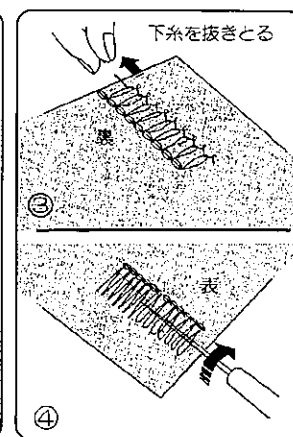
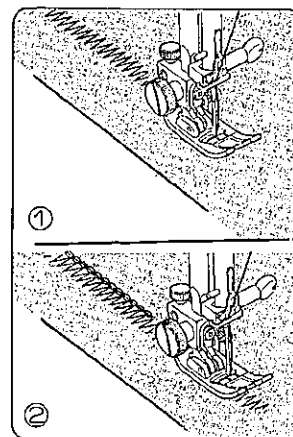
③あて紙をとります。

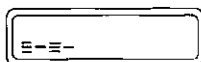
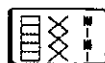
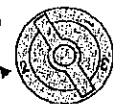
飾りステッチ

縫い目が引き立つような糸を選んで、布の表からミシンをかけます。

＊縫いはじめと、縫いの方向をかえるときは、つぎの針落ちの位置をよく確かめてください。

フリンジ縫い

＊模様は が使えます。

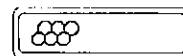
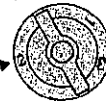
①フリンジの束(たば)になる部分の織り糸を、1～2本抜きとります。
②織り糸を抜いた上を、縫います。
③フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。

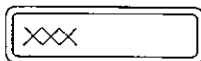
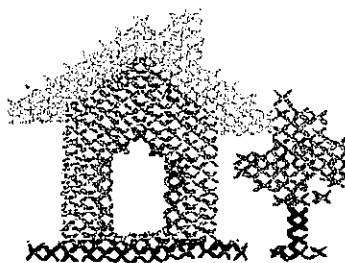
6 糸を使ったフリンジ

＊《ミシンのセット》(B)のときは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせます。

①(A)にセットして縫います。
＊上糸が、布の裏にほぼ全部出るるように上糸調子を弱くしてください。
②(B)にセットして①の縫い目の右端を、三重縫いします。
③①で縫った下糸を、引き抜きます。
④太い針か、目ほどきの背で、上糸を布の表に引きあげ、アイロンで仕上げます。

粒縫い

図案の輪かくをはっきりさせたいときなどに使います。

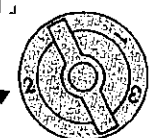
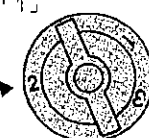
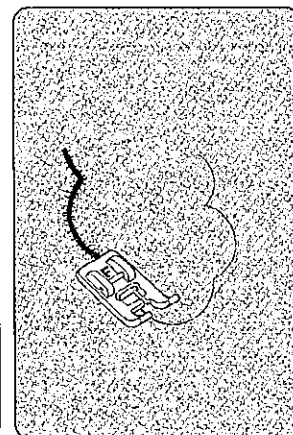
図案にそって輪かくを縫います。

＊急なカーブを縫うときは、ゆっくり縫います。
＊縫いおわったら押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

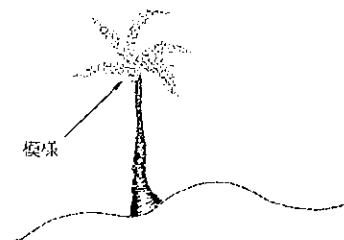
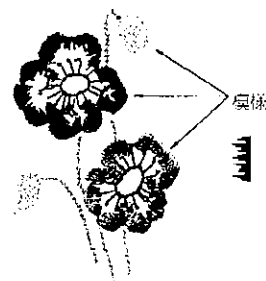
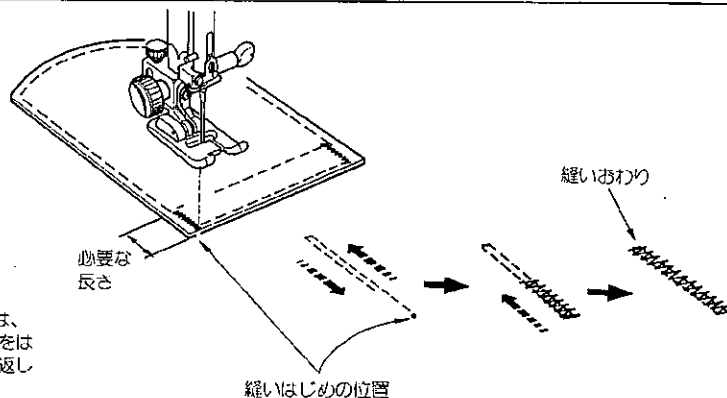
砂縫い

図案の中を縫いつぶすのに使います。出来あがりの感じが、砂をまいたように見えます。

＊角やせまい場所は、縫い目の巾を小さくして縫います。
＊縫いおわったら押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

クロスステッチ

刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。

＊縫い目の巾調節キーで調整すると、ステッチの大きさがかえられます。

ぼかし縫い

＊縫い目のあらさや巾を変えると、変化したぼかし縫いができます。
＊別売りの丸型ししゅう枠とししゅう押えを使うと、よりきれいに仕上がります。

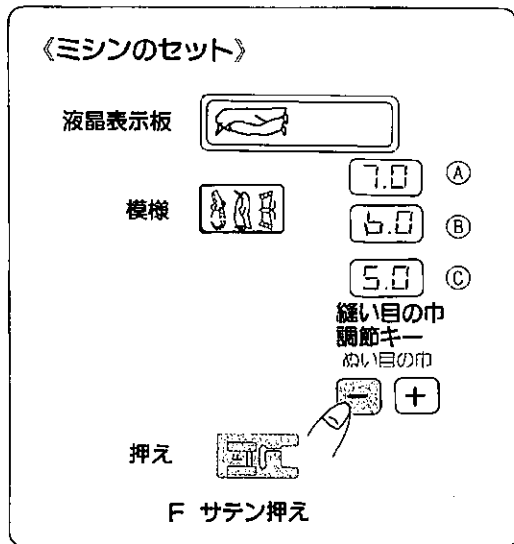
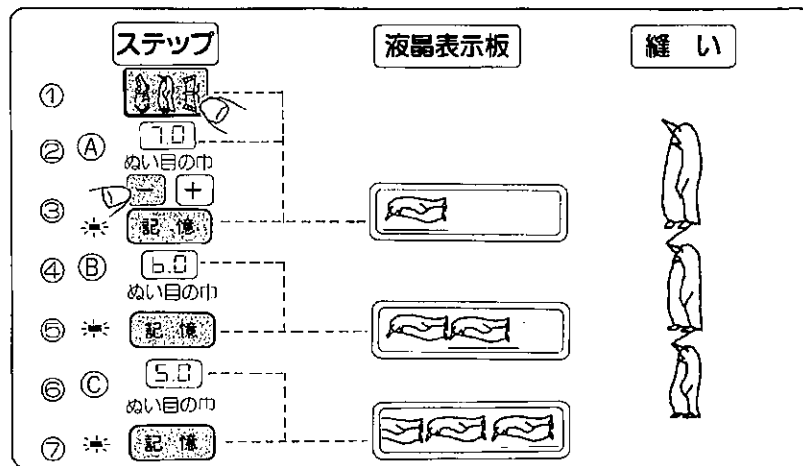
図案のふちどりや縫いつぶしなどに利用できます。
図案にそって縫います。
＊縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

かんぬき止め縫い

①最初に必要な長さまで縫い、返し縫いキーを押して、針が自動的に止まるまでコントローラーを踏み続けます。

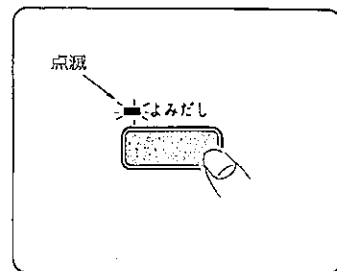
《かんぬき止めの記憶》

○くり返し同じ長さのかんぬき止めをするときは、①の手順のあとに記憶キーを押してから縫います。

○縫い目の巾、縫い目のあらさをかえたいときは、縫い目の巾調節キーや縫い目のあらさ調節キーで調節してください。

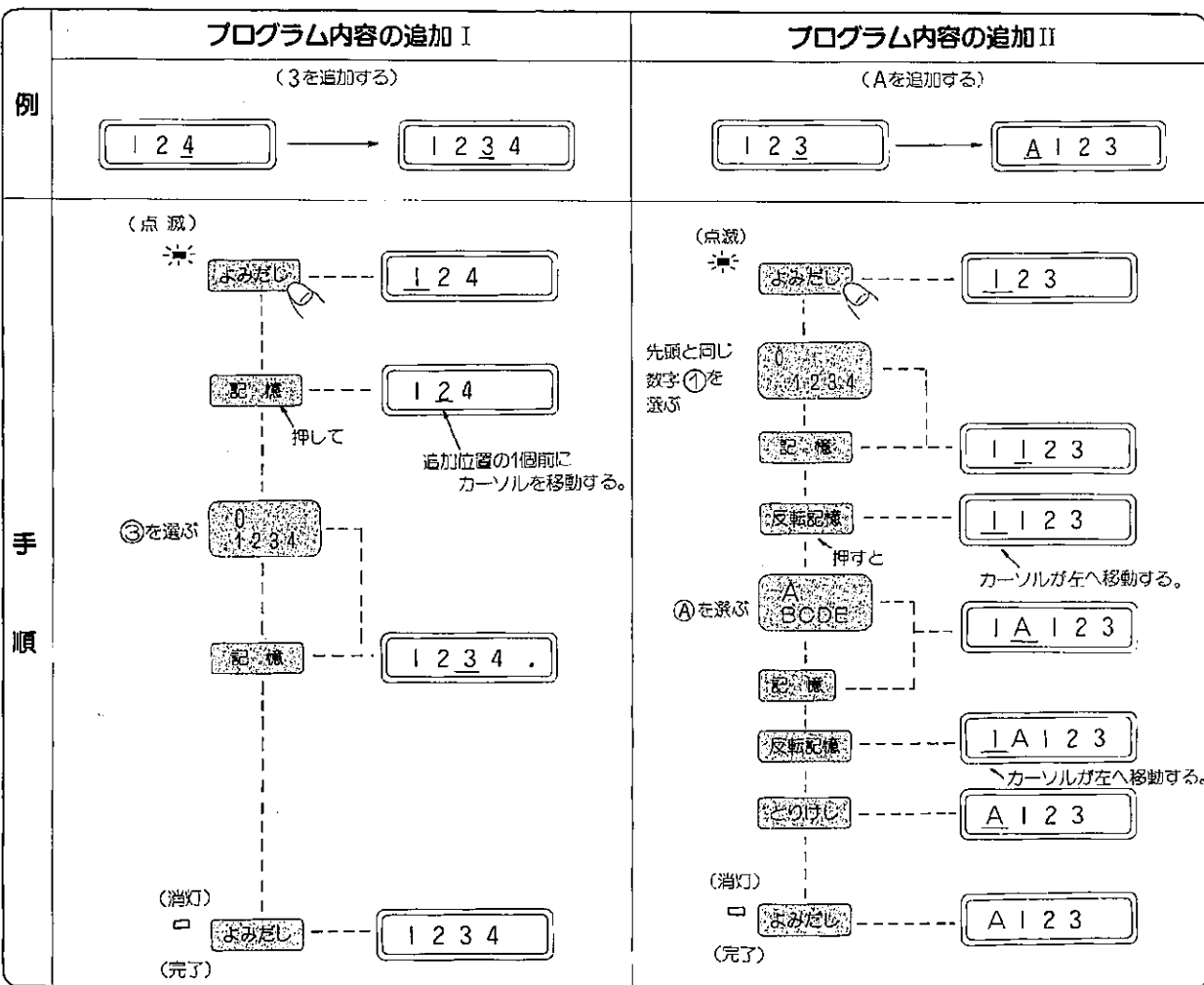
相似模様縫い

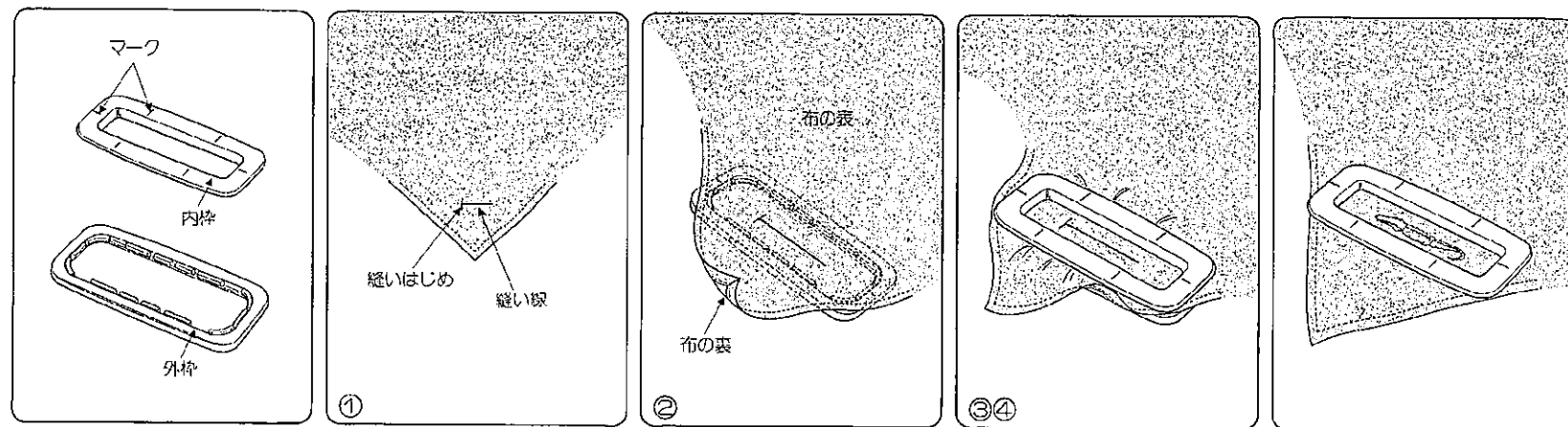
★相似模様縫いの例（ ）

＊模様は ＊ ○ が使えます。
模様 は、A基本押えでも縫えます。

○縫い目の巾をかえると、縫い目のあらさも同時に変化して、相似的に小さくなります。

《よみだしキーの使い方》

○プログラムした内容を確認したり訂正したりするときなどに使います。
よみだしキーを押すと、プログラムされた最初の模様が液晶表示板に表示されます。
記憶キーを押すと、カーソルが右に、反転記憶キーを押すと、左に移動します。

★プログラムの確認や訂正をするとき知っておきたいこと

1、プログラムの確認や訂正は、縫う前はもちろん、縫ったあとでもできます。
2、プログラムの訂正途中で、同じ模様を続けて追加するときは、1個記憶させるたびに模様を選び直します。
3、プログラムのはじめに止め縫いの追加はできません。

	プログラム内容の追加 I	プログラム内容の追加 II
例	（3を追加する） 1 2 4 → 1 2 3 4	（Aを追加する） 1 2 3 → A 1 2 3
手順	（点滅）よみだし --- 1 2 4 記憶 --- 1 2 4 押して 追加位置の1個前にカーソルを移動する。 ③を選ぶ 0 1 2 3 4 記憶 --- 1 2 3 4 . （消灯）よみだし --- 1 2 3 4 （完了）	（点滅）よみだし --- 1 2 3 先頭と同じ数字①を選ぶ 0 1 2 3 4 記憶 --- 1 1 2 3 反転記憶 --- 1 1 2 3 押すと カーソルが左へ移動する。 Ⓐを選ぶ A BCDE --- 1 A 1 2 3 記憶 反転記憶 --- 1 A 1 2 3 カーソルが左へ移動する。 とりけし --- A 1 2 3 （消灯）よみだし --- A 1 2 3 （完了）

ししゅう枠の使い方

〈利用例〉

ししゅう枠は内枠と外枠からできています。ペンギンやわに、ちょうちょうなどのワンポイントししゅう、アルファベットのイニシアルししゅうをうすい布にさす場合に、ししゅう枠を用いると縫いあがりのきれいなししゅうができます。

①ししゅう位置を、あらかじめ布に、水で消えるチャコでしるしをつけます。

＊他の布に試し縫いをしてそれぞれの模様や文字を組み合わせた時の縫いあがりの長さを覚えておきましょう。

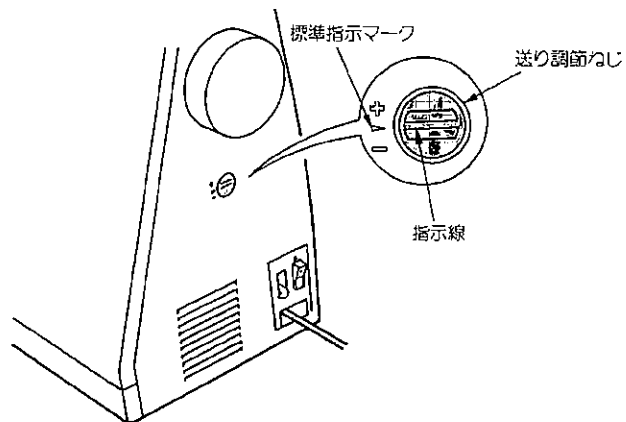
②布の表を上に向けて、外枠にかぶせます。縫い方向が枠に平行になるように布目を整えます。

③布のしるしと、ししゅう枠の内枠のマークを合わせながら、内枠を布の上から外枠に押し入れ、布を張ります。

＊縫いはじめと縫い線が内枠のマークと合っていないときは、もう一度布目を整えて内枠をはめ直してください。

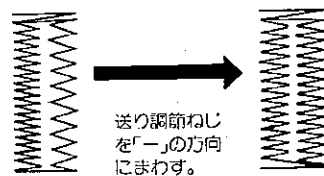
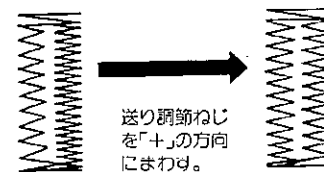
④押えの中心を縫い線に合わせ、針をはじめのしるしにさし、押え上げをさげて縫いはじめます。

＊ししゅう枠が押えの下にはいりにくいときは、押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげてください。

布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

＊標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

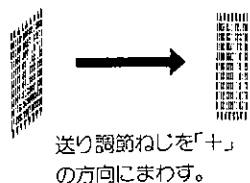
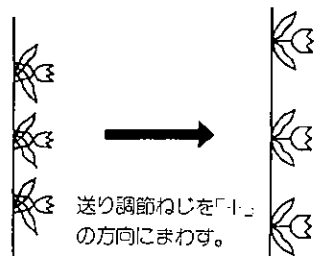
★ボタン穴かがり(マニュアルボタンホール)の左右の縫い目のそろえ方

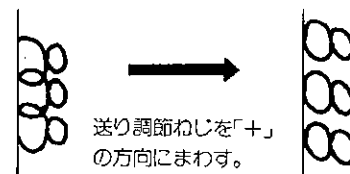
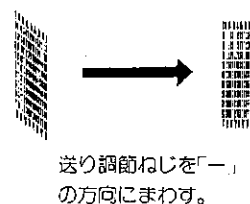
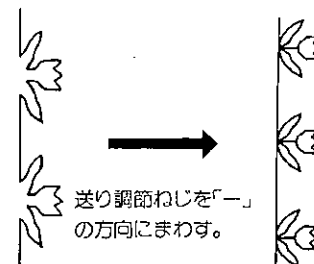
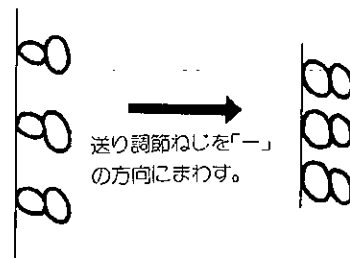
ボタン穴かがりの左右の縫い目のあらさがそろわないときは、下の方法で調節します。

＊ボタン穴かがりはJスライド押えを使います。

★ダーニングの形の整え方

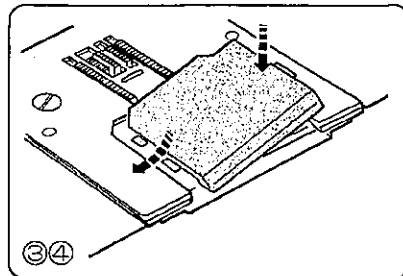
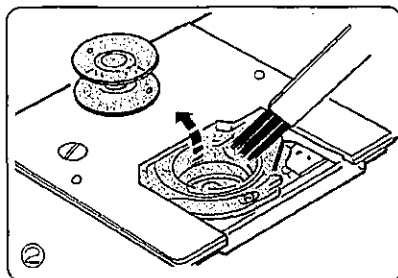
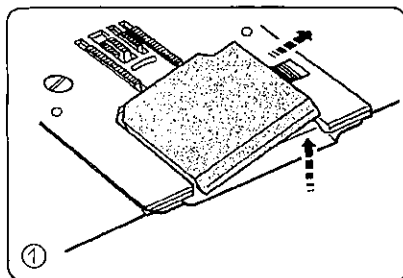
ダーニングの縫いはじめ(左側)と縫いおわり(右側)のたかさがそろわないときには、下の方法で調節します。

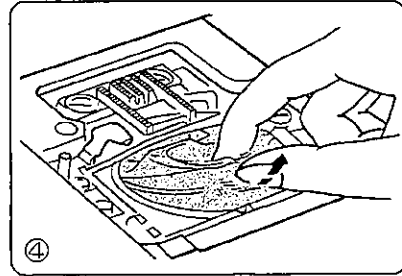
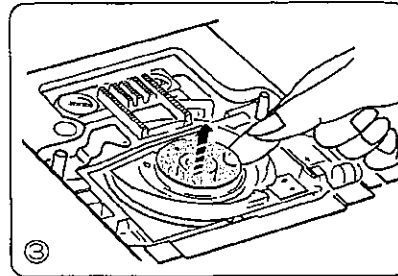
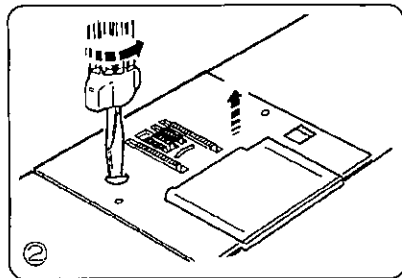
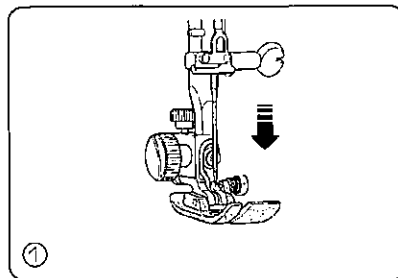
★スーパー模様の形の整え方

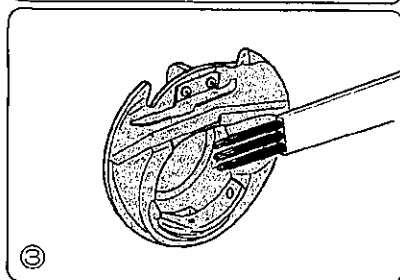
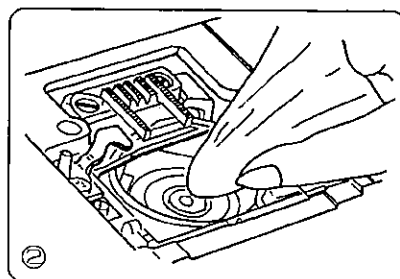
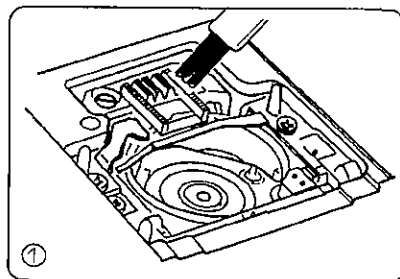
スーパー模様の形が伸びたり、つまったりして整わないときは、下の方法で調節します。

★文字・数字の形の整え方

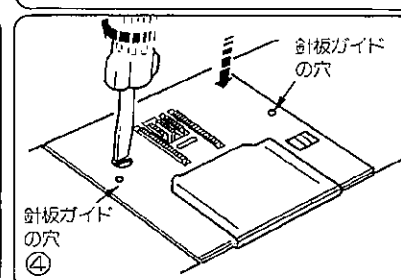
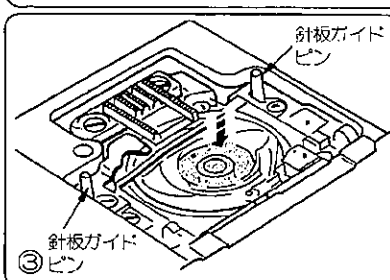
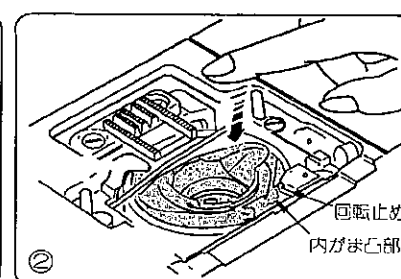
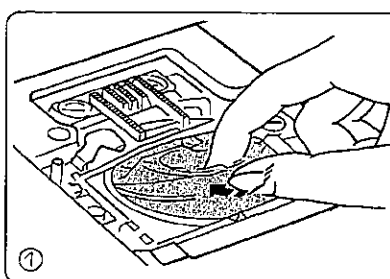
文字・数字の形が整わないときは、下の方法で調節します。

ミシンの手入れと調整

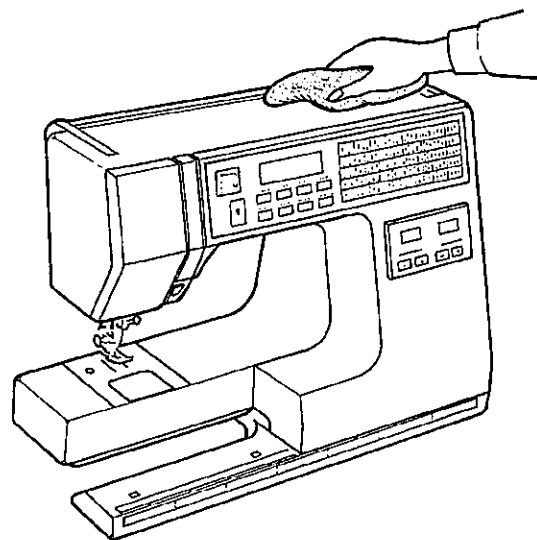
使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。
＊手入れのときには、上下停針キーを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
＊手入れのときには、説明されている個所以外は分解しないでください。
＊このミシンは、注油の必要がありません。

★かまの掃除

糸くずや、ほこりがつくと、不調や故障の原因となりますので、いつもきれいにしておきましょう。
①角板開放ボタンを右にずらして角板をはずします。
②ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。
＊ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。
③ボビンを入れます。
④角板の凸部を針板にさしこみ、上から押して角板をとりつけます。

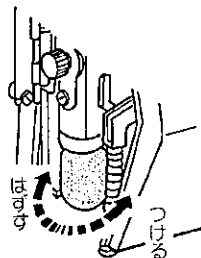
★かまの分解

①針と押えをはずします。
②針板しめねじをはずし、針板をはずします。
③ボビンをとり出します。
④内がまの手前を上に引きながらはずします。

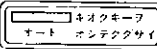
★かまと送り歯の掃除

①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て

①内がまをさしこみます。
②内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
③ボビンを入れます。
④2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。
＊手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

★外装の手入れ

ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとります。

＊シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。

★電球のとりかえ

はずすとき……左にまわします。
つけるとき……右にまわします。

＊電球(照明用100V-12W)はジャノメミシン直営支店でお求めください。

＊電球をとりかえるときは電源プラグを抜いてください。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
音が高い。	①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。	86、87ページ参照 86、87ページ参照
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方がまちがっている。 ⑤縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下においていない。 ⑥縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑦針にくらべて、糸が太すぎるか、細すぎる。	12、13ページ参照 18ページ参照 23ページ参照 23ページ参照 15ページ参照 20ページ参照 16ページ参照
下糸が切れる。	①内がまに下糸の通し方が、まちがっている。 ②内がまの中に、ごみがたまっている。 ③ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	11ページ参照 86、87ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 ④上糸調子が、特に強すぎる。 ⑤縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥布にくらべて、針が細すぎる。	23ページ参照 23ページ参照 23ページ参照 18ページ参照 20ページ参照 16ページ参照
液晶表示が見にくい。	①調節つまみの位置がよくない。	4ページ参照 (液晶表示板調整つまみをまわす。)

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布に対して、針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 ⑦しつけのとき、布をぴんと張っていない。 ⑧品質の悪い針を使用している。	23ページ参照 23ページ参照 16ページ参照 16ページ参照 12、13ページ参照 22ページ参照 58ページ参照 針を交換する。
縫い目がしわになる。	①上糸調子が合っていない。 ②上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて針が太すぎる。 ④布にくらべて縫い目があらすぎる。 ⑤押え圧が合っていない。 ＊特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	18ページ参照 11、12、13ページ参照 16ページ参照 縫い目を細かくする。 22ページ参照
縫いずれがおこる。	①押え圧が合っていない。	22ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が細かすぎる。 ④縫いはじめに、布が送られない。 ⑤送り歯があがっていない。	86、87ページ参照 22ページ参照 縫い目をあらくする。 40ページ参照 58ページ参照

調子が悪い場合	そ の 原 因	直 し 方
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が、弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。	18ページ参照 16ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまに、糸やごみがたまっている。(このとき、ミシンの安全装置がはたらいて、モーターを自動停止します。) ③オートボタンホール縫いがおわったとき、液晶表示板に［キオクキーヲ オート オシテクダサイ］が表示されている。	6ページ参照 86、87ページ参照 45ページ参照
模様が整わない。	①送り調節ねじが合っていない。 ②布に対して送りが合っていないため、模様が整わない。 ③布に対して送りが合っていないため、文字・数字が整わない。 ④指定の押えを使用していない。	84、85ページ参照 84、85ページ参照 85ページ参照 21、22ページ参照
ボタン穴かがりがうまくいかない。	①布に対して、縫い目のあらさが合っていない。 ②左と右の縫い目のあらさが合っていない。 ③伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。 ④指定された押えを使用していない。 ⑤ボタン穴かがりの選択（オート、またはマニュアル）がまちがっている。	46ページ参照 84ページ参照 44ページ参照 44、49ページ参照 44、49ページ参照
模様が選べない。	①下糸巻きの状態のままになっている。（警告ブザーが鳴る。） ②記憶できる限度を超えて、模様を記憶させている。 ③プログラム中に記憶できない模様を選んでいる。（警告ブザーが鳴る。）	10ページ参照 34ページ参照 34ページ参照

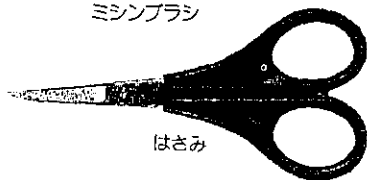
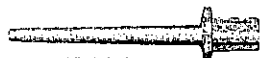
標準付属品

目ほどき

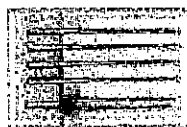
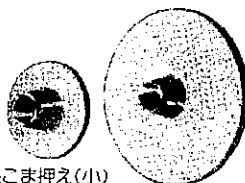
ねじまわし(大)

ねじまわし(小)

ミシンブラシ

はさみ

補助糸立て棒

フェルト

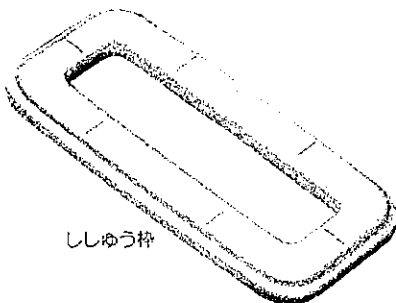
ボビン

針と針ケース

糸こま押え(小)

糸こま押え(大)

・糸こま押え(大)はミシンの糸立て棒についています。

ししゅう枠

MEMO

825－800－009(K)GE①

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国500余の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
★お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
★お電話いただければ調整係がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさらないでください。
★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎03(277)2200
〒104 東京都中央区京橋3－1－1

支店	電話	〒	住所
札幌支店	☎011(261)5671	〒060	札幌市中央区南二条西2－11
仙台支店	☎0222(21)3591	〒980	仙台市国分町3－5－32
新潟支店	☎0252(41)8661	〒950	新潟市東大通り2－4－13
東京支店	☎03 (277) 2488	〒104	東京都中央区京橋3－1－1
大宮支店	☎0486(41)2975	〒330	大宮市下町1－6
千葉支店	☎0472(22)5121	〒280	千葉市富士見町1－14－11
横浜支店	☎045(251)8523	〒231	横浜市中区長者町5－71
名古屋支店	☎052(733)5116	〒464	名古屋市千種区内山3－33－14
大阪支店	☎06 (213) 1635	〒542	大阪市南区三津寺町20
尼崎支店	☎06 (481) 2193	〒660	尼崎市東難波5－7－20
広島支店	☎082(228)5181	〒730	広島市中区幟町15－9
高松支店	☎0878(31)1721	〒760	高松市瓦町2－10－14
福岡天神支店	☎092(712)0721	〒810	福岡市中央区天神3－4－10
鹿児島支店	☎0992(25)2200	〒892	鹿児島市山之口町1－1

＊上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたので
お知らせ申し上げます。
今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

◉移転先

住　所　〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室 0120－026－557（フリーダイヤル）
042　－661－2600
受付　平日 9：00～12：00　13：00～17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

◉移転日

2009年7月6日

※旧住所　〒104-8311 東京都中央区京橋3丁目1番1号
旧電話　お客様相談室 0120－026－557（フリーダイヤル）変更なし
03－3277－2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002